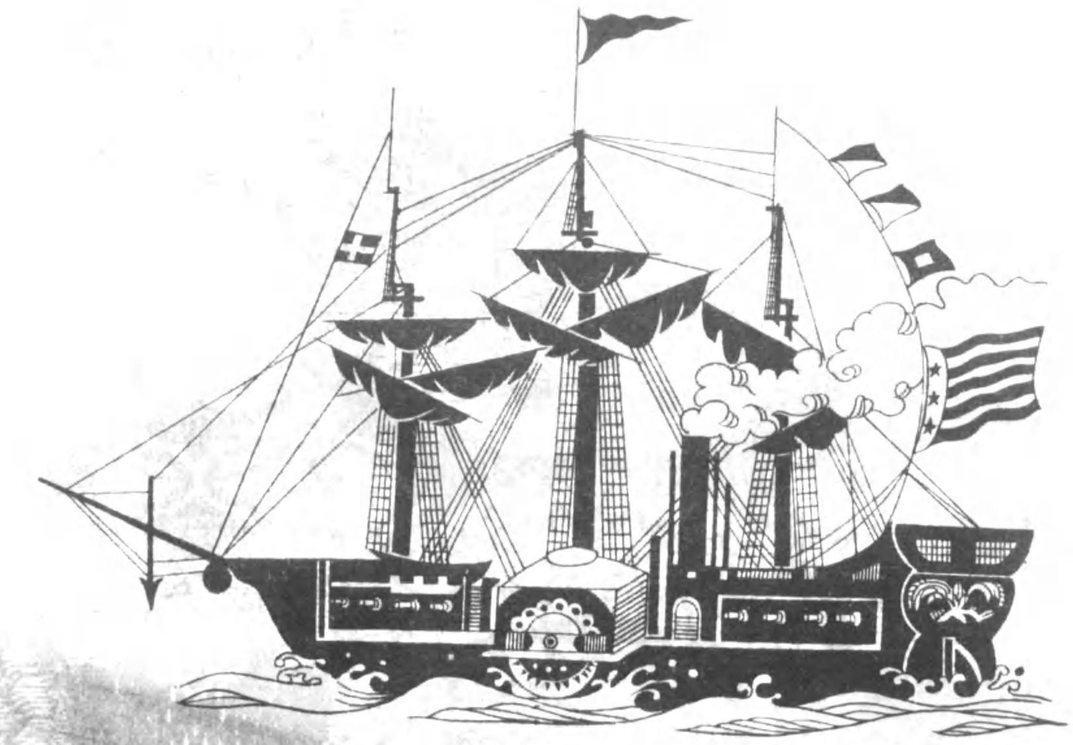
630

正大・治明・末幕

史事十八顧回



第二十輯

東京・東洋文化協會・發行

特267
122

◎ 口繪解説 ◎

◎『立太子式當日の迪宮裕仁親王殿下』

大正五年十一月三日迪宮裕仁親王殿下は午前六時四十分陸軍歩兵大尉の御正裝にて、奉迎の爲參候せる勅使伊藤式部次長以下供奉員を從へさせ給ひて高輪御殿御出門、宮城に着御の上、空項黑幀に黃丹綱脛の大口を召され、賢所大前に御參進、大正天皇は皇太子の御象徵たる壺切の御劍と共に勅語を賜りて無事式を終らせ給うたが、是實に皇儲令御制定後の最初の立太子式であつて意義深き御式であつた。寫眞は當日の迪宮殿下即ち今上陛下を拜寫したものである。

◎『ギルドホールに於けるロンドン市歡迎會』

我皇太子殿下の海外御巡遊は未曾有の盛儀であつたが、大正十年五月十一日御着英の第二日目、ロンドン市長は我皇儲殿下をギルドホール（市廳）に御招待申上げて盛大なる歡迎會を開催した。此日我皇太子殿下は英皇太子プリンス・オブ・ウエールス殿下を御同伴、林駐英大使、主馬頭チエスターフィールド卿御陪乘、六頭立の宮廷馬車を召されて會場に赴かせられ市長ゼームス・ロール氏夫妻の御出迎を受けさせ給うて定めの席に着かせ給うた。會場にはヨーク公、コンノート殿下を初めロンドン朝野の名士雲の如くに參集、やがて金襴のガウンを着けたる市長ロール氏は起つて歡迎の辭を謹嚴なる口調を以つて朗讀したる後、之を黃金の匣に納めて殿下に捧呈した。殿下は直に御起立遊ばされ

「子は倫敦市民の懇切なる歡待を嘉納する。此歷史的に名高い室に於て倫敦市民の名の下に貴下が提出された歡迎の辭を衷心感謝する次第である。子は嘗て英日兩國が共通の理由の下に戰つた日を想起して無限の感慨なき能はざるものである。子は平和の日の來れるを喜ぶが、而も恒久の平和を確保し正義を樹立せんが爲に吾人々類が努むべき責務の大なるを切實に感ずる、子は今最初の海外旅行に於て過去二十年間我日本の親愛なる同盟國にして東洋平和の確保の偉業を共にした友邦を訪問した事を喜ぶ、願くは譽高い倫敦市民の上に限り無き幸福と繁榮とを與へられたい」と爽爽たる御態度と朗々たる御聲とを以て御答辭を述べさせ給ひ、林駐英大使之を英譯し奉れば滿場割るゝが如き大喝采大拍手嵐の如くに起り、參列の光榮に浴したる日本官民は、殿下の堂々たる王者の御風格を目のあたりに拜して皆感激の涙に咽んだと云ふ。

本御寫眞中、殿下の背後は市長ロール氏夫妻で、右の卓上にはロンドン市の權章たる黃金の劍と杖とが置いてある。參列貴顯名士は前列右より、コンノート殿下、ヨーク公、閑院宮殿下、英皇太子プリンス・オブ・ウエールス殿下、又、ロンドン市長に向つて其左に、林駐英大使、其左後方は珍田侍從長である。

幕末
大明治
正治末

回顧八十年史 第二十輯 目次

口絵（原色版）

『立太子式當日の廸宮裕仁親王殿下』……四八七
『ギルドホールに於けるロンドン市歓迎會』……四八八

玻璃版

佛國飛行團の來朝……四九一
佛飛行團員の拜謁、飛行團次長ラゴン少佐の葬儀、飛行協會の送別會、佛國より寄附の傳書鳩。
憲法發布三十年記念祝賀會……四九二
憲法發布祝賀會大宴會、參列の各大臣、憲法記念館外觀、憲法記念館內部。
李太王殿下の國葬……四九三
李太王殿下、喪服の李王殿下、大漢門前の市民の哀悼、大正八年三月一日訓練院葬場殿に於ける國葬、大輿葬場殿に入らんとする大漢門前の朝鮮人の哀號。
靖國神社五十年祭……四九四
靖國神社五十年祭、參拜の名士。
皇太子殿下御成年式……四九五
御成年式當日の東宮殿下、東京市奉祝塔の電飾、馬場先門外の奉祝塔。
明治神宮立柱式……四九六
明治神宮新始式、立柱式、立柱式の楔子打込み、青年團員の勞役奉仕、明治神宮。
戰利潛航艇の到着と英軍タンク……四九七
英軍タンクの到着、戰利潛航艇の横須賀着、皇族妃殿下の戰利潛航艇御視察。
ロシヤ歌劇團の來朝……四九八
ロシヤ歌劇團の『カルメン』、椿姫に扮せるオシポワ孃、カルメンに扮せるスルスカヤ孃、『アイーダ』のアモネリスに扮せるスルスカヤ孃。
下ノ關東京間走破・ページェントの始……四九九
日比谷公園に到着せる金樂・秋葉兩選手、ページェントの始、公設市場の始。
兩國々技館の竣工……五〇〇
最初の國技館、大正八年四月組立中の有樣、大正八年四月二十日大旋風の爲に倒潰せる大鐵傘、大正八年五月組立の有樣（一）、大正八年五月組立中の有樣（二）、大正八年八月十日の上棟式、大鐵傘下の上棟式場。
國技館開館式……五〇一
開館式當日の國技館、横綱大錦の土俵入、古式三段構への式。
尼港事件（一）……
獄壁に貼されたる同胞の遺書、バルチザンの幹部、我守備隊の入市、燒き拂はれたるニコラエフスク、同胞百四十名の呻吟せる牢獄。
尼港事件（二）……
尼港日本領事館全景、ニコラエフスク市全景、殉難せる石田領事一家及び館員、第一陣地となれる日本兵營、追悼會に於ける原首相、九段坂上の殉難記念碑と遺兒石田芳子。
第一回國際勞働會議……
大正八年十月二十九日米國ワシントンに開催の第一回國際勞働會議出席員、勞働使節の出發、勞働者代表桝本氏反對運動、桝本代表の出發、婦人顧問田中孝子夫人。
李王世子殿下の御婚儀……
大正十一年五月七日京城王城內石造殿に於ける兩殿下御成婚の御披露會、大正十一年五月五日昌德宮園遊會に於ける李王世子及び妃殿下。

東宮殿下の御外遊(一)……五〇三
海軍御正裝の東宮殿下、三田通御通過の殿下、御召艇と香取の皇禮砲發射、東京驛前の奉送門、琉球御上陸、御渡歐地圖。

東宮殿下の御外遊(二)……五〇三
御召艦香取、御召艦上にて在留小學生に賜謁、セイロン島カンディ植物園御遊覽、エヂプト・カイロ博物館前の殿下、スフインクス御撮影中の殿下。

東宮殿下の御外遊(三)……五〇四
ポーツマスへ進航中の御召艦、御上陸の殿下、ヴイクトリア停車場の御閲兵、ウインゾル宮殿に向はせらる。

東宮殿下の御外遊(四)……五〇五
五月九日ビクトリア停車場より英皇と御同乘バツキンガム宮殿に向はせらる、バツキンガム宮殿前に奉迎する在留邦人、ロンドン市より捧呈の歡迎文入黄金匣、五月九日ホワイトホールの世界大戰々死者記念塔に花環を捧げ御禮拜遊ばさるる殿下、五月十八日ケンブリツヂ大學より名譽法學博士の學位を贈られ給ふ。

東宮殿下の御外遊(五)……五〇六
ヘンレー飛行場御訪問、首相ロイドヂヨージ氏別邸御訪問、エヂンバラ古城を訪はせ給ふ、ブラツセル博物館御巡覽、リエーヂユ戰跡御視察、エツフエル塔御遊覽

東宮殿下の御外遊(六)……五〇七
オランダ國アムステルダムに御着王宮に赴かせらるゝ殿下、エマヌエル三世陛下と御同乘キリナーレ宮殿に向はせらる殿下、横濱御安着香取艦上にて乾杯遊ばさるゝ殿下、萬歳聲裡に東京に御還啓。

東宮殿下御外遊(七)……五〇八
パス勳章御佩用の東宮殿下、パリーよりツーロンに至る御日程表、駐英大使主催奉迎晩餐會の獻立表、和蘭に於ける御日程表。

大正年間の著名なる音樂家……五〇九
作曲及び指揮者山田耕作氏、作曲及び指揮者近衛秀麿氏、三浦環女史、ヴアイオリン幸田延子女史、ピアノ小倉末子女史、ピアノ久野久子女史、大正十四年四月二十五日歌舞伎座にて開催の日露交驩大管絃樂會。

映畫實演の台覽・大正映畫界の人々……五一〇
映畫界最古の俳優尾上松之助、松之助實演『櫻子驛』、山本嘉一、早川雪洲、上山草人、諸口十九、酒井米子、栗島スミ子。

名士のおもかげ……五一一
土方久元、田中光顯、渡邊千秋、波多野敬直、金子堅太郎、井上勝、青木周蔵、林董、大東義徹、辻新次、岡部長職、井上毅、渡邊國武、野村靖、佐野常民、山尾庸三。

教育界の名士……五一二
福原鐐二郎、高田早苗、山川健二郎、加藤弘之、中村正直、新渡戸稲造、加納治五郎。
諭吉、江原素六、岡野敬二郎、佐藤昌介、濱尾新、杉浦重剛、

記事

大正七年
八幡製鐵所疑獄事件……軍艦「河內」の爆沈……英國コンソート殿下御來朝……富山外五縣下の米騒動……日本軍艦陸戰隊の浦鹽上陸……浦鹽派遣軍の出發……寺內內閣の總辭職・原內閣出現……東伏見宮殿下御渡英。

大正八年
スペイン感冒流行す……李太王薨去と朝鮮の不穩……日本委員國際聯盟原則に贊成す……東宮殿下御成年式……奠都五十年祝賀會……東京市內各新聞社全部休刊……世界平和の克復……平和記念の大觀兵式と市中の祝賀……京城南大門驛頭の棒事。

大正九年
平和宣布の大詔渙發……國技館新築落成……尼港慘殺事件……李王世子堪殿下御婚儀……羅馬尼皇太子御來朝……新たに國勢院設置さる……社會局の新設……明治神宮御鎭座祭……國際聯盟第一回總會。

大正十年
関元植暗殺事件……東宮殿下の御外遊……小說家協會と無名作家同盟……日英兩國の共同通告。

立太子式當日の迪宮裕仁親王殿下

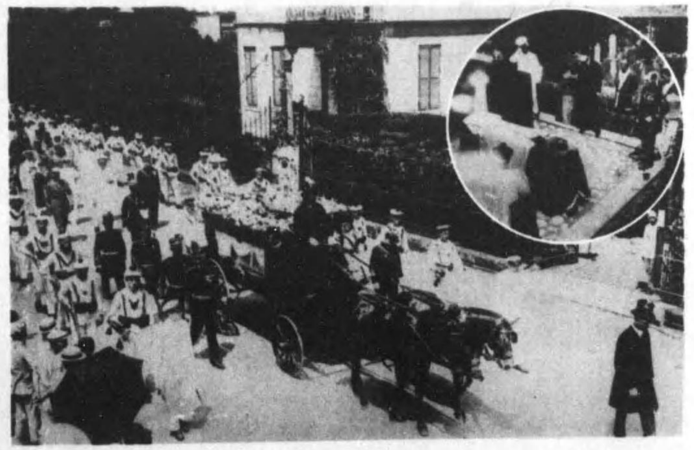
大正五年十一月三日皇子迪宮裕仁親王の爲に立太子禮を行はせられたが此式は即ち立儲令御制定後最初の立太子禮で實に意義深きものであつた。此日親王は高輪御殿御出門宮城に御參內、空頂黑帽に闕旅の御袍にて賢所御參拜の後大正天皇よりの御劒と璽を受拜をされ、引續いて朝見式を行はせられ式を了御式を行はせられて御切靈と勅語を給せられたる。鳥瞰は高輪御殿御出門の模様である。

ギルドホールにおける市歓迎會

大正十年十月五日三第の英着御日一十月五年十正大
上ルブーテの右てつ向に下殿 又 。妻夫氏ルーロ・スムーゼ長市ンドンロは方後の下殿 。るあで貴寫御の時當たつ起き捧く如の嵐手拍の喚讃れさ盡し了魅を士名顯貴の百數場滿に格風の者王るた々堂 晉玉るた
々朗 委英御るた爽颯で（下陛上今）下殿子太皇ふ給せさべ述を辭答てし對に辭の迎歓の長市ていに於に上會迎歓市ンドンロるたれさ催に大盛ていに於に（廳市）ルーホドルギ目日三第の英着御日一十月五年十正大
助樓林使大英駐は左の長市 下殿スルーエウ・ブオ・スンリブ備皇英 下殿宮院閑 公ターヨ 下殿トーノンコりよ端右てつ向列前は士名 。るあていに置てし叉交をとと杖と鄙の製金黄るた章樓の市ンドンロはに
るあで長侍御田珍は方後左の子椅の使大林

佛國飛行團の來朝

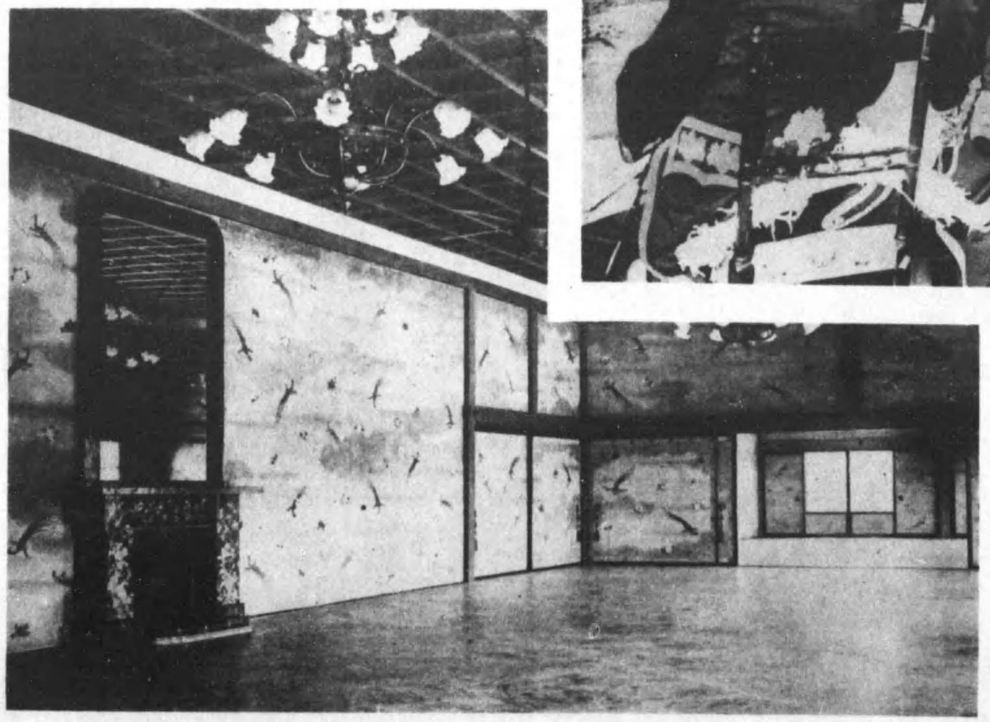
右、飛行協會の送別會
飛行團の爲に帝國飛行協會は早稲田大隈侯邸にて其送別會を開き團長以下四十名出席した、中央久邇宮殿下、右フォール大佐、左、大隈侯、
下、佛國より寄贈の傳書鳩
佛國陸軍より寄贈の一千羽の傳書鳩が大正八年四月一日東京に着した。右より教官クラツキン少尉、同夫人、ストリーブ軍曹、同夫人である。



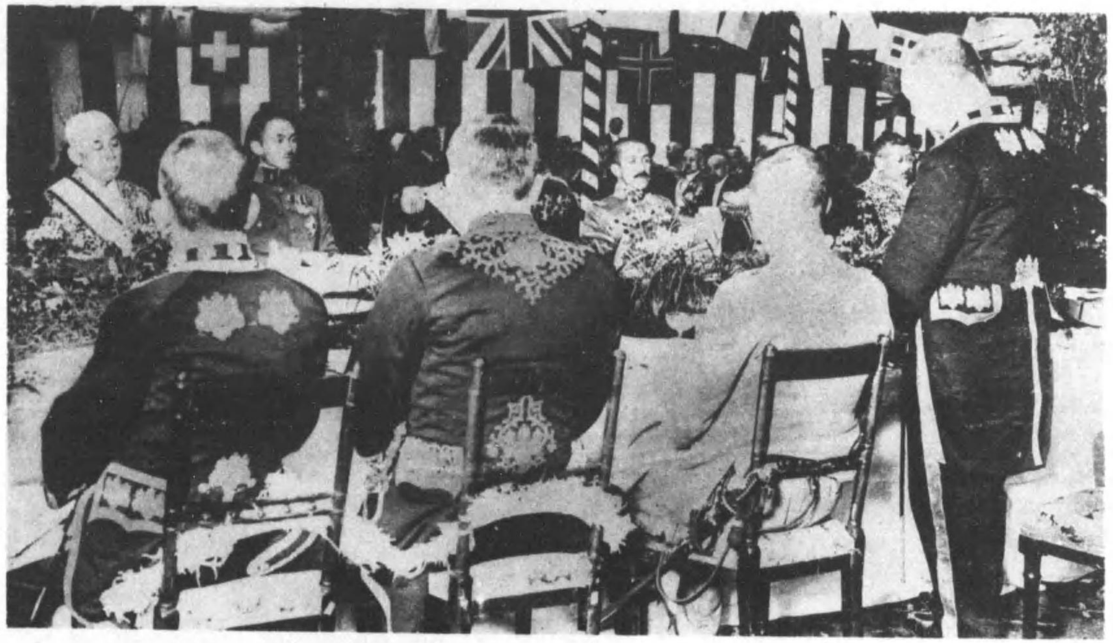
上、佛飛行團員の拜謁
大正八年一月二十七日佛飛行團長フォーク大佐一行二十三名は宮中に參內、大正天皇より拜謁を許された。
左、飛行團次長ラゴン少佐の葬儀
來朝の飛行團次長ルイ・オーグスト・ラゴン少佐は八年八月一日横濱ヨリエンタル・ホテルにてピストルにて自殺同四日葬儀があつた。

世界大戰は航空術の急速なる進歩を促し我帝國陸軍よりは特校を見學に派遣したのであつたが大正八年陸軍は佛國飛行團フォーク大佐以下二十三名を迎へて所澤、各務ヶ原等にて教授を受け每も英國よりセルシンキ佐以下を迎へて研究したが米人スミスの『宙返』り等も出來たと云つたものであつた此等は實戰上必要なる高等飛行術として攻めて我國に紹介せられた。又傳書鳩は大戰中通信機關として大功を奏したものである。佛國よりの優秀なる傳書鳩一千羽を我陸軍に寄贈し教官クラツキン少尉ストリーブ軍曹を派遣して飼養及び通信法を教授したのである。

憲法發布三十年記念祝賀會



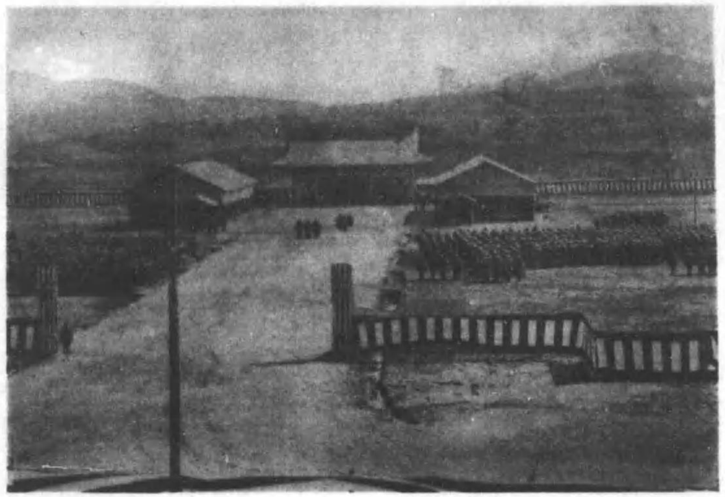
右、憲法記念館外觀
下、憲法記念館內部
二間續き百八十疊敷であつて正面は玉座である。



上、憲法發布祝賀會大宴會
向つて右端、立てるは大岡議長。
左、參列の各大臣
左より、原首相、加藤海相、田中逓相、山本農相、床次内相、中橋文相、野田遞相、伊東巳代治子、加藤高明子、齋藤海軍大將。

大正八年二月一十日帝國憲法發布三十年記念祝賀會が青山離宮の原の憲法記念館にて擧行せられ午後三時御臨席遊ばされて閣議宮殿下臨席遊ばされ代名代として閣議の後、明治大帝の玉座のあるりし記念の一室にて黑田枢密院議長、大岡衆議院議長、原内閣總理大臣の賀表を受け奏せられ八百餘名の參列員の萬歲三唱の後、陛下には皇居に還御あり次いで貴衆兩院は開かれて憲政を擧げ大岡議長の發聲にて憲政の萬歲を三唱して午後五時散會し散會した。

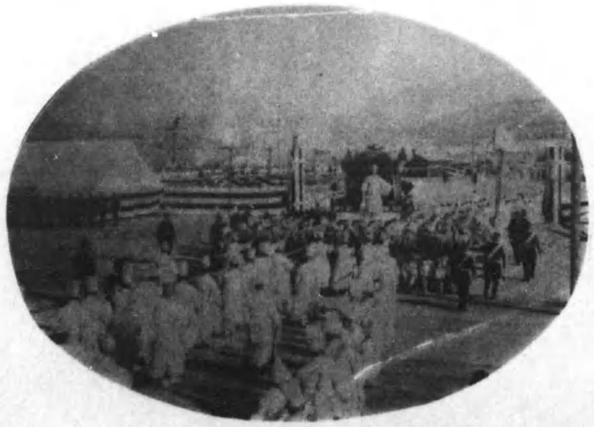
李太王殿下の國葬



李太王殿下

上、大正八年三月一日訓令院葬場殿に於ける國葬
下、大喪葬場殿に入らんとす

上、喪服の李王殿下
朝鮮古式の麻の喪服、麻の帽子にて贊侍尹德榮氏
諸乘御馬車にて祭場に向はせらるる有樣。
下、大漢門前の朝鮮人の哭號



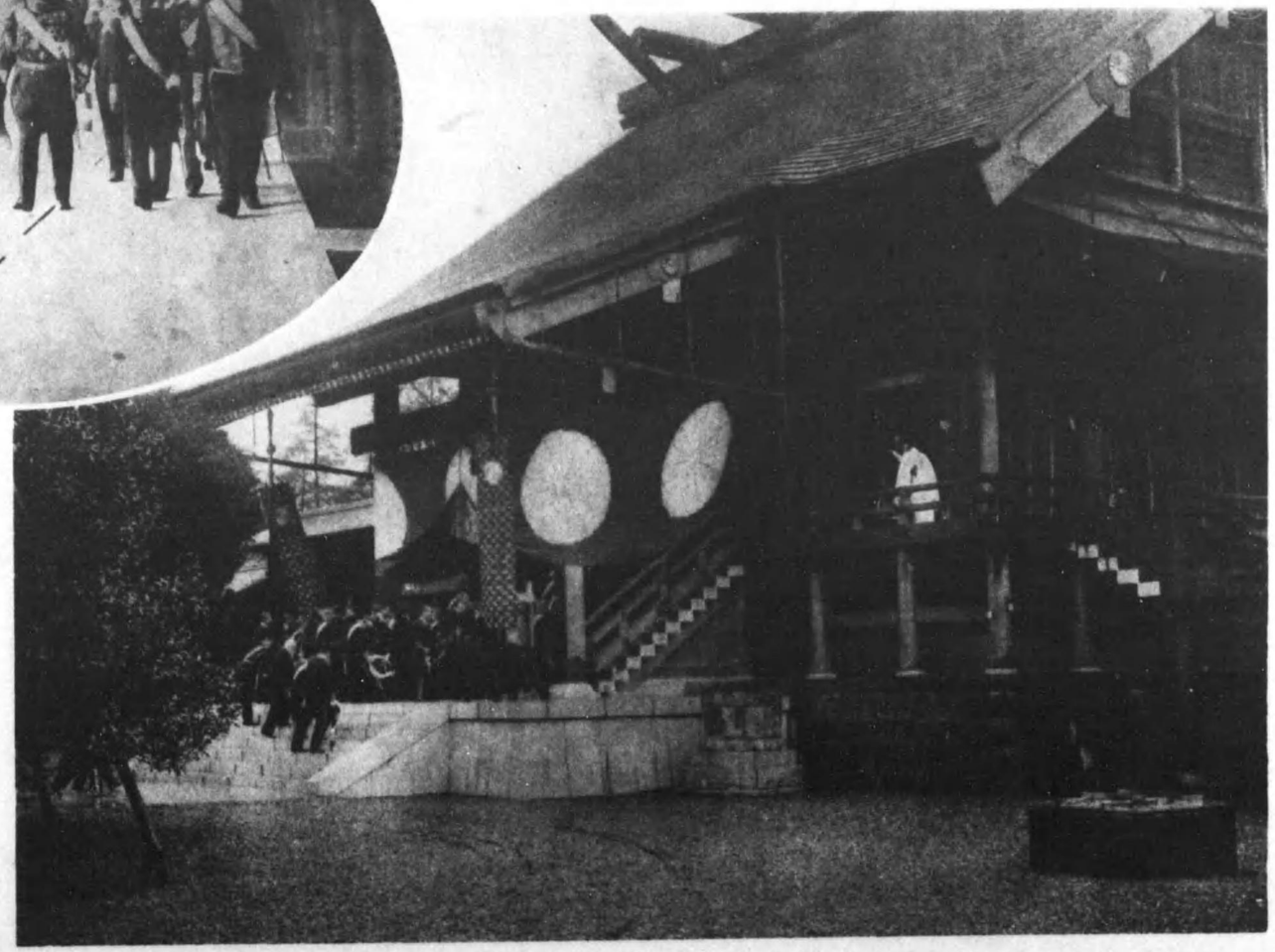
大漢門前の市民の哭悼
李太王薨去御發表の大正八年一月二十二日德壽宮大漢門前の市民の市民悼哭

李太王殿下は大正八年一月二十二日午前六時三十分腦溢血にて薨去あり御年六十六歲。同年三月一日國葬儀を行はせらるに於いて李王世子殿下を始め各王族の骨別式後梓宮は午前八時三十分正殿を出で光明門に至る三十二間の木橋を渡り梓宮を奥大奥に移し參らせ奉る前駆は軍旗を先とし京城鎮守隊葬場殿に殿場葬儀の人百數十數人の大行列を為し數十數人の人の軍旗

靖國神社五十年祭

靖國神社五十年祭

大正八年五月二日靖國神社五十年記念大祭を執行せられた。圖は陸軍武官諸の拜殿拜禮の有樣である。

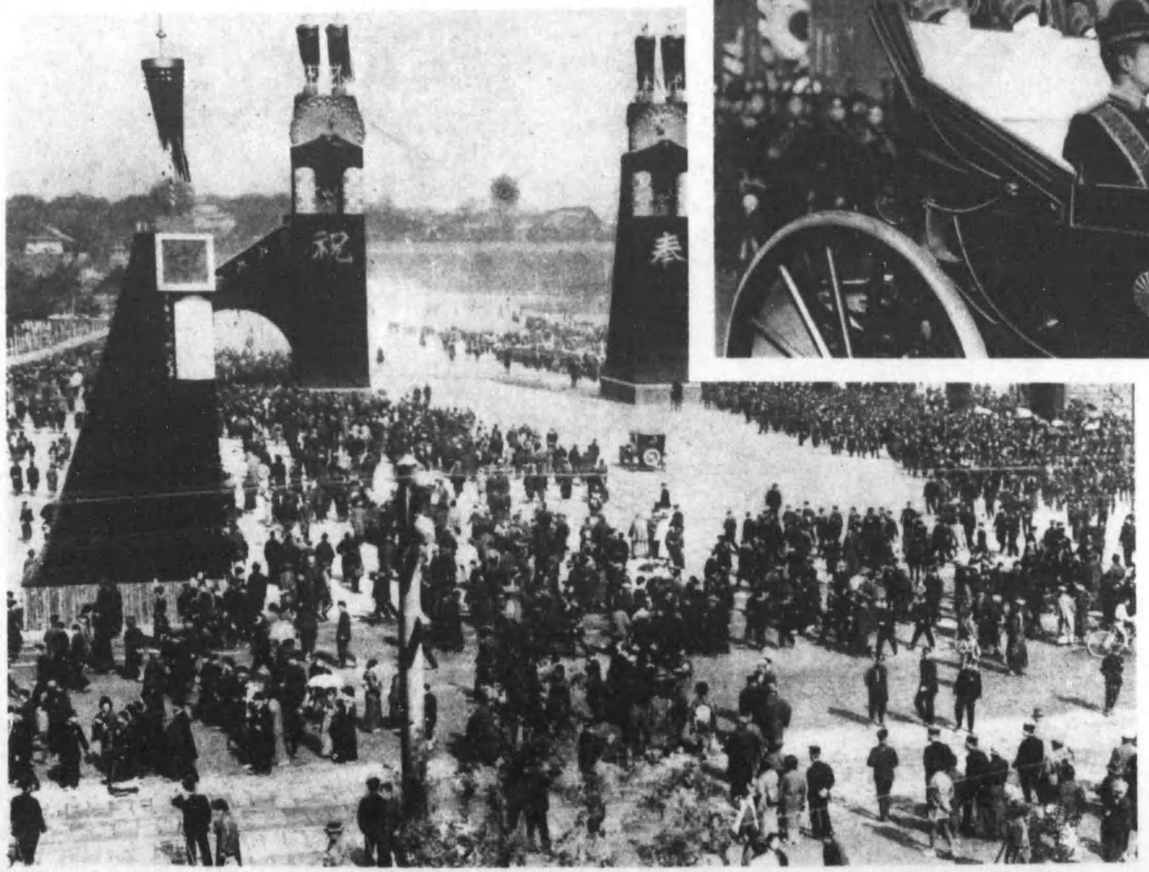


上、參拜の名士

大正八年五月二日記念大祭に參拜の名士で前なるは東鄕元帥、次ぎは井上元帥、清浦子爵、及び原首相である。

靖國神社五十年記念大祭は大正八年五月一日、二日の兩日盛大に催され、第二日目には大正天皇は午前九時半宮城御出門あり御親拜あり、次いで皇太子殿下は午前十一時前御拜あり、続つて陸海軍大臣を始め文武官百を始め以下合祀者遺族拜禮あり往く春の雨の雪もしめやかなる雰に十二萬七百八十餘の英靈の在りし日を偲んだのである。

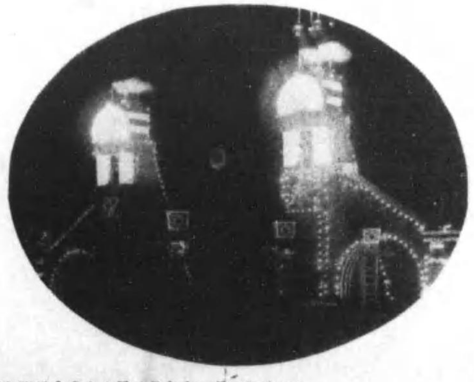
皇太子殿下御成年式



馬場先門外の奉祝塔

新の式ンロシツセセび及式スンサツネル、尺五十八高さ塔祝奉の市京東
裏で柱頭には馬麟を高く掲げ其下に金色燦然たる鳳凰がある。

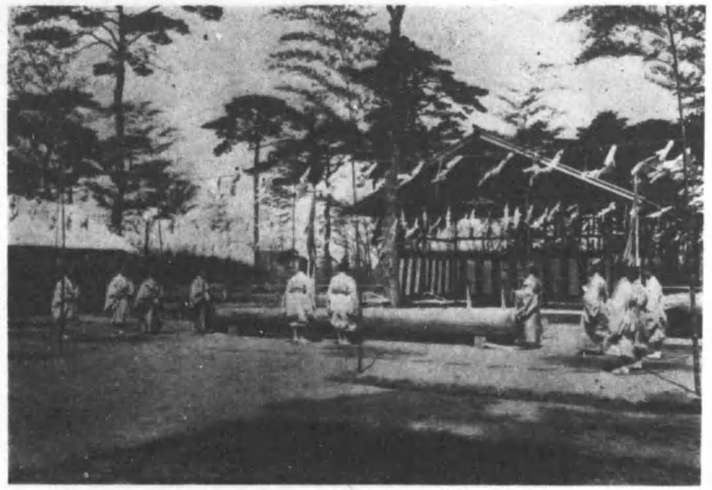
上、御成年式當日の東宮殿下
大正八年五月七日御成年式當日御參內の東宮殿下
下、東京市奉祝塔の電飾



大正八年四月二十九日は長く もも太子殿下の親王誕生日に當り宮中で御成年式を挙げ給ひ、竹田宮殿下(今上陛下)、第十八回の誕生日に當り宮中で御成年式を挙げ給ひ、竹田宮殿下霊去につき五月七日に御延期になつたが、五月七日の行幸所で、午前九時御出門、宮中賢所大前で式を挙げ給ひ、入江侍從長從下奉供樂、奉祝の式を行はせられ、大花綬章を賜はり、大勲位菊花章授与式に引続き、大元帥陸軍大将に任ぜられ、陸軍大臣に親任式を挙げ給ひ、大臣に親任式を挙げ給ひ、陸軍大臣に親任式を挙げ給ひ、陸軍大臣に親任式を挙げ給ひ、陸軍

明治神宮立柱式

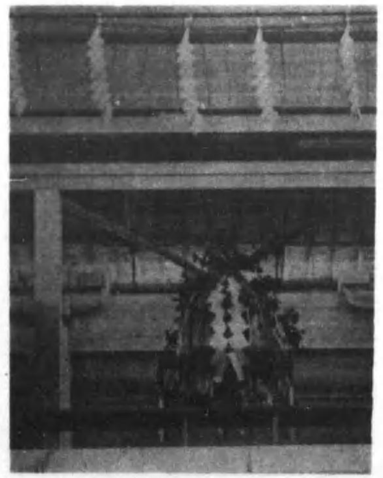
明治神宮



明治神宮新造始式（大正五年三月二十五日）

青年團員の勢役奉仕

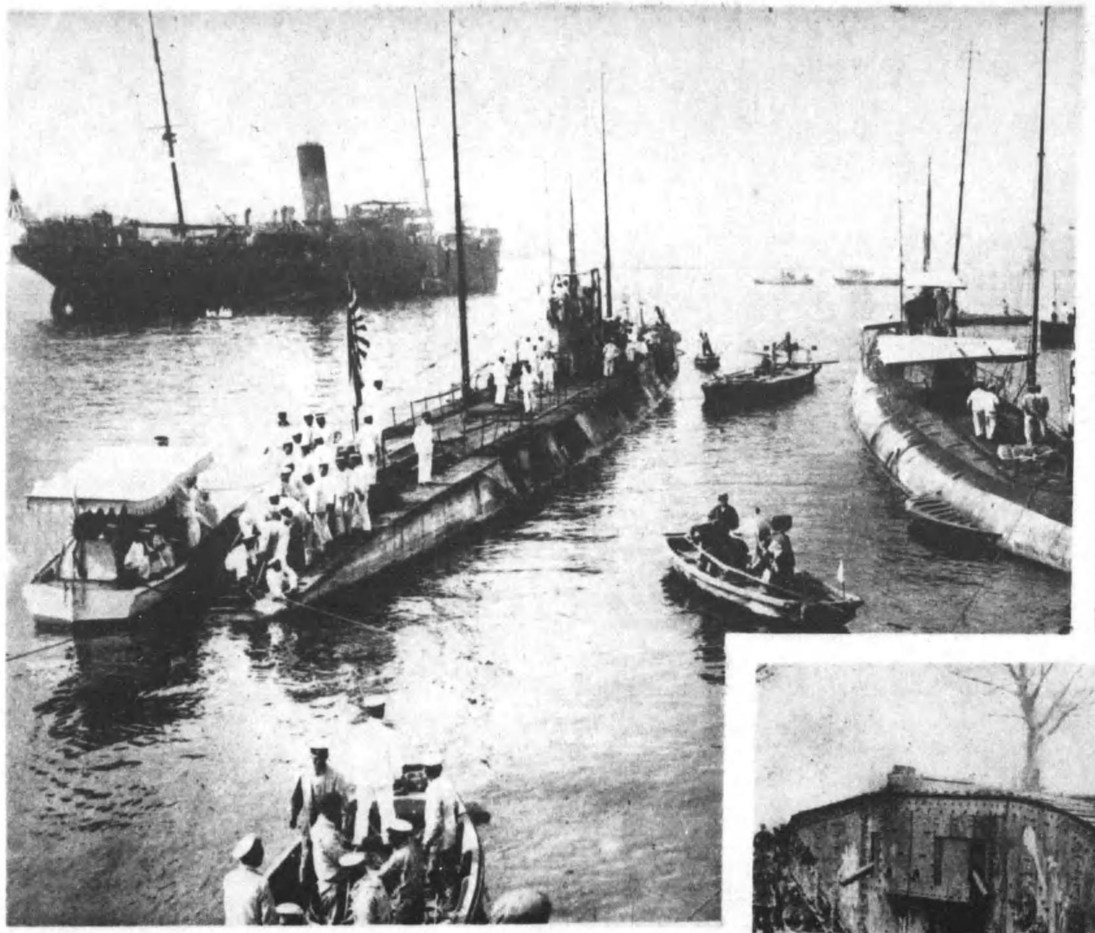
立柱式の楔子打込み



立柱式（本殿正面）
大正八年五月二十七日擧行

明治神宮は總坪數二十二萬九百餘坪、總工費四百四十三萬圓の豫算で起工され大正五年三月二十五日午前九時より新式始めあり、當來大事工に遣み込み式柱立を式て本日七十二月五年八正大に於ては殿正面（本殿）の扉の金具は下賜の櫻の紋章、冠の麻白の抱の柱御て以を樹水の抜四下一命令は工の名八し奏を調祝司宮西宮を式始の式を執行せられ御造營局總總裁内大臣兼宮内大臣以下内閣總理大臣を始め各國大使公使の參列あり、式は一日を期して各地青年團に通牒し奉仕の青年團員は一日十時七分から仕奉力勢を出ずるものあ

戰利潛航艇の到着と英軍タンク



下、英軍タンクの到着
大正七年十月二十九日西部戰線にて使用せる英軍タンク（戰車）は東京に到着し附添陸軍少佐ブルース氏の指揮の下に青山練兵場にて作業をして市民に見せた。タンクは大正五年九月十五日ソンム戰に始めて參加したのである。
左、皇族妃殿下の戰利潛航艇御視察（芝浦にて）

戰利潛航艇の横須賀着
大正八年六月十八日横須賀に到着せる獨潛航艇七隻と特務艦關東。

七此、がたし着到に賀須横横事無年八正大てし冒を離困の多歳中途し發を出を國英てり護を隻三は進日艦軍、隻四は東關艦軍れらせ配分に國各を之は艇航潛るせ捕分りよ逸獨
隻は獨逸潛航艇の分配せられたものがあつて日本へは『キャツツ・フ・ブツヤキ』が是が日本郵船會社の大洋丸であるが『ボスニイフ』が是が汽船の分配せられたものもあつて日本郵船會社の大洋丸である。尚其外に人員觀覽せしめられた。

ロシヤ歌劇團の來朝

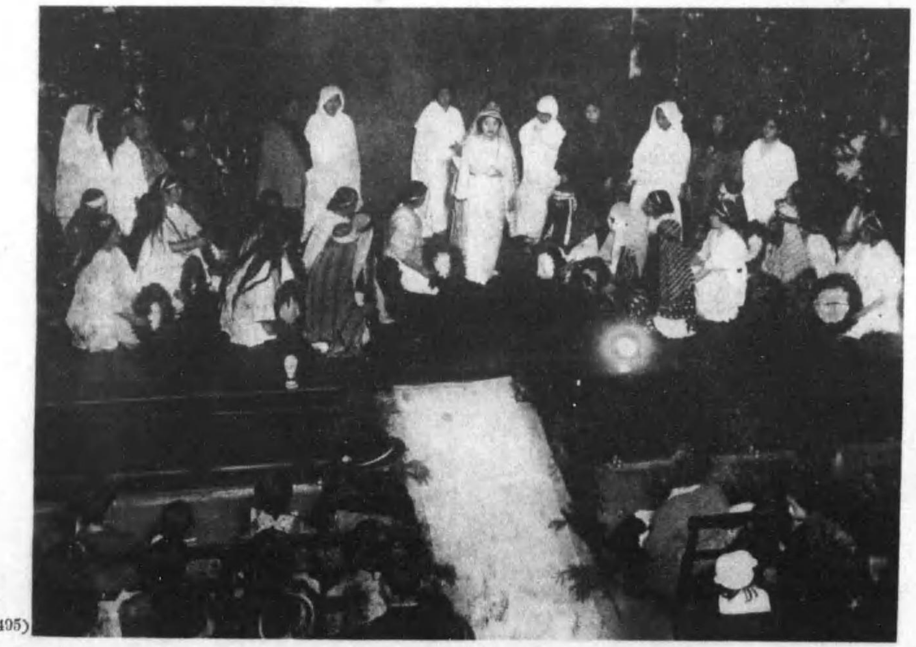
『ロシヤ歌劇團の『カルメン』
大正八年九月一日帝劇にて上演せるロシヤ歌劇カルメンの舞臺面

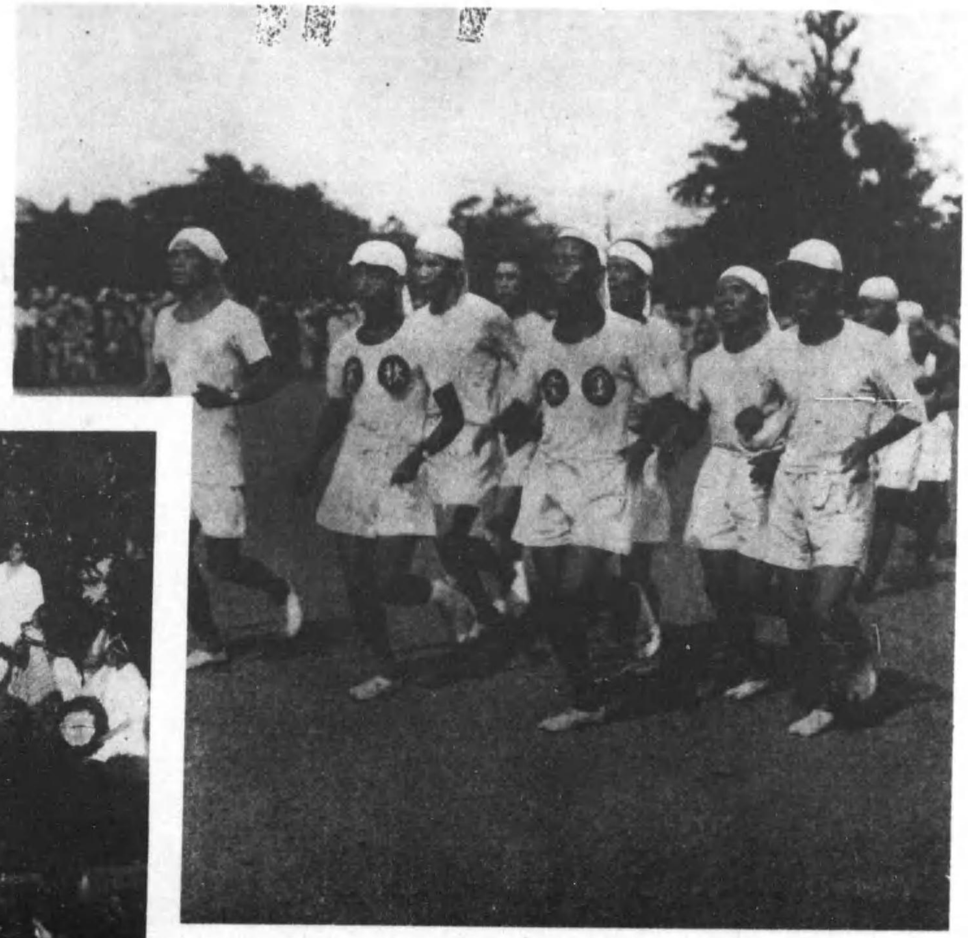
上、椿姫に扮せるオシポロヴ
下右、カルメンに扮せるスルスカヤ嬢
下左、『アイーダ』のアモネリスに扮せるスルスカヤ嬢

ーイア』に共と手寧の名餘十三り成てつ以を名餘百員總女男は團同。るあでらか朝來團劇歌ヤシロるせ演開てに場劇國帝日一月九年八正大に實はのたれら見がのもきしら劇歌ヤ日本で
介紹に本日くし正がのもるなラペすてつよに團劇此でのもなり掛大ふ云とる替に毎目曲は役主へ換取晩毎を種五の『フノドゴ・スリーボ』及び『シメルカ』、『トスーアフ』、『姫庫』『ダ
な由自と樂音いし美てめ始も民市京東がるあでのたつ波に國來て經を本日しをげ上旗てに海上てし織組を團劇歌が々人たれは道を國本に爲の命革ヤシロは行一。るあでのもたれらせ
。たつあで況盛ふ云と員諧夜連てし接にのもるな劇歌大たし和融のと技演

下ノ關東京間走破・ペーエジントの始

右、公設市場の始
世界大戰以來物價騰貴の爲下層民の生活困難の爲東京市では三味線堀、牛ヶ淵及び四谷見附に公設市場を開いて日用品を廉價で販賣した。寫眞は下谷三味線堀の市場である。
下、ペーエントの始
大正八年十二月二十日午後二時神田青年會館にて演ぜられたるペーエント『奉仕』





日比谷公園に到着せる金栗、秋葉用選手

大正八年七月二十三日下ノ關を出發連日快走をつゞけ八月十日午後二時三十分東京日比谷公園内到着點に着せる金栗四三、秋葉師の選手。

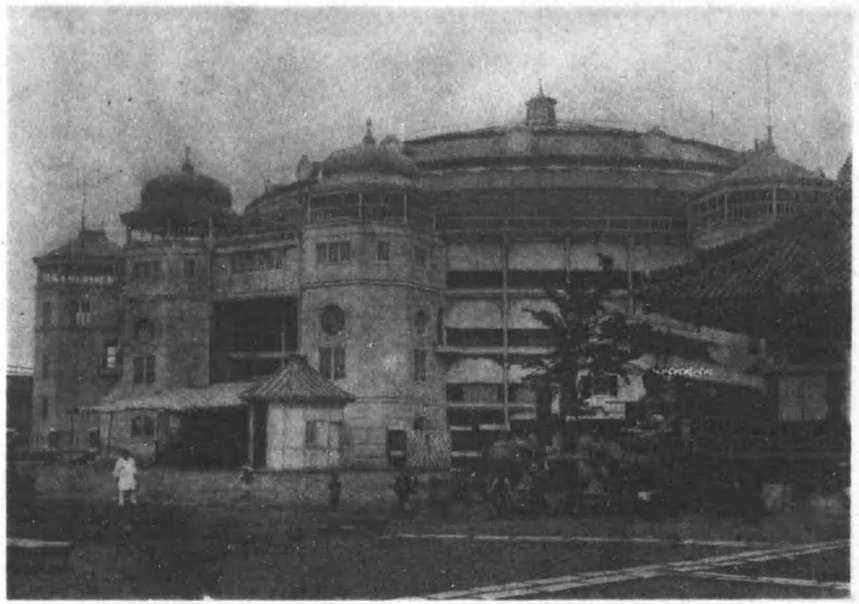
東京日比谷公園に到着せる金栗四三及び秋葉師の選手は下關下ノ關を出發連日快走を續け八月十日午後二時三十分東京日比谷公園内に到着し、ペーエントの始まりとして『奉仕』と云ふ『劇外野』は東京市の二人の選手の出發を祝して演ぜられたのである。

我國マラソン界の雄なる金栗四三及び秋葉師の二人は下關下ノ關を出發連日快走を續け八月十日東京日比谷公園に到着せる迄の二百三十五哩を十二時間三十分で走破せんとして中途に於て一人の女子も加はつて演ぜられたのである。

公設市場

牛ヶ淵、四谷見附に開き市場は日用品廉價販賣の爲に三味線堀

兩國國技館の竣工



大正六年十一月二十九日午前一時三十分賣店燒火より發火全燒
館技國の初費

大鐵傘下の上棟式場

大正八年八月十日の上棟式
取餅を投げつゝある出羽ノ海(左)と棟梁理事

大正八年四月二十日大旋風の爲に倒潰せる大鐵傘

(上) 大正八年四月四年の中立組の有棟
(目回一第)

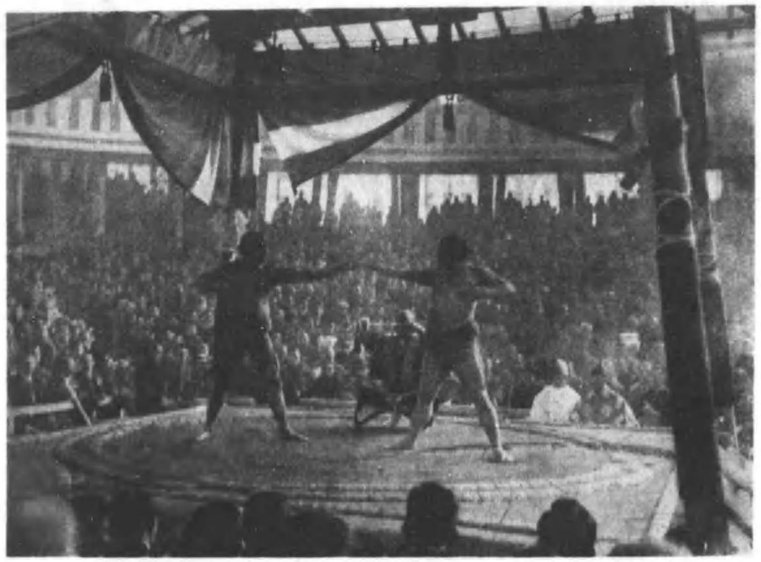
(二)棟有の立組月五年八正大(下)
(時の目回二第)

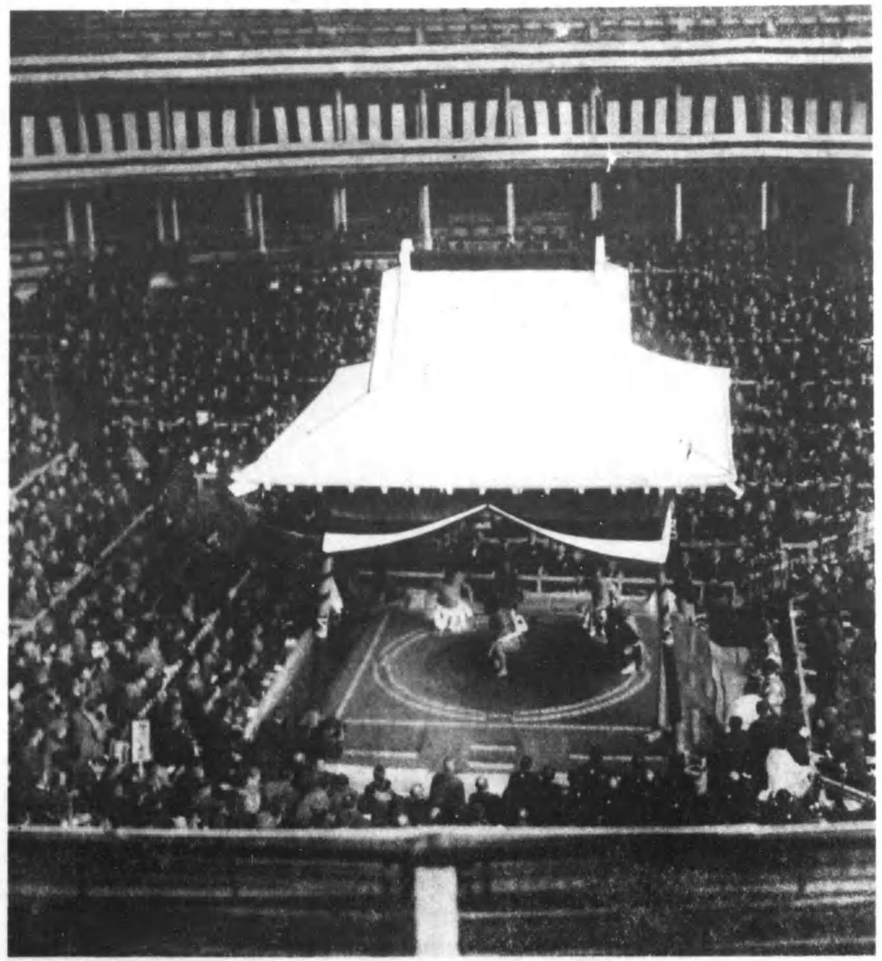
(上)大正八年五月組立中の
(一)棟有
(時の目回二第)

兩國の國技館は大正六年竣工して常々東洋一の大殿堂と評判のものであつたが大正八年四月二十九日再建落成の工事に取掛つてから一年間の損害二百十二萬四千七百十二円の火災を出し一名の死傷者を出したのである。一方大鐵傘の大旋風の爲に倒潰し五萬四千五百円の損害を蒙つた。人夫等の中即ち二名の死傷者を出したのである。一方大鐵傘の大旋風の爲に倒潰し五萬四千五百円の損害を蒙つた。人夫等の中即ち二名の死傷者を出したのである。

再建の國技館は鐵骨コンクリートで堅牢に出來てゐるが、現在の國技館と同樣である。

國技館開館式





國技館の開館式當日

大正九年一月十五日開館式當日の有樣で寫眞は横綱大錦の土俵入である

露拂、太刀持は梅木山

右、横綱大錦の土俵入

上、古式三段構への式

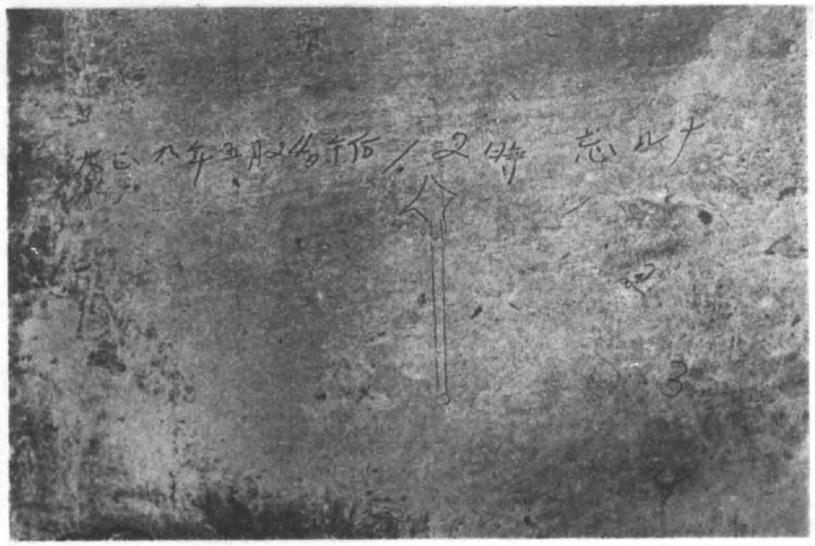
右より横綱風、同行司吉田清風、左。横綱梅木山

二ヶ年の年日千と工費百三十三萬圓を投じたる東洋一の國技館は大正九年一月十五日午後一時開館式を行ひ、秋元春朝子爵の露拂、取締の羽出山、太刀持は梅木山、行司は吉田清風、行司は吉田追風、横綱は大錦、横綱は梅木山、横綱は風、横綱は清風、横綱は出羽の海、横綱は常陸山、横綱は太刀山、横綱は鳳、横綱は大錦、横綱は梅木山、横綱は風、横綱は清風、横綱は吉田追

パルチザンの幹部

上、中央の白衣は總司令官トリヒーチンン（二十五歳）婦人はニーナレナデアヲキシカ（二十八歳）司令官と隊付門多は間の長謀參官と副隊同官、後列中央司令官と隊付の右は隊長、横隊は年少の官、背の後屏風は日本人よりの贈物。

下、我守備隊の入市（石田家藏）

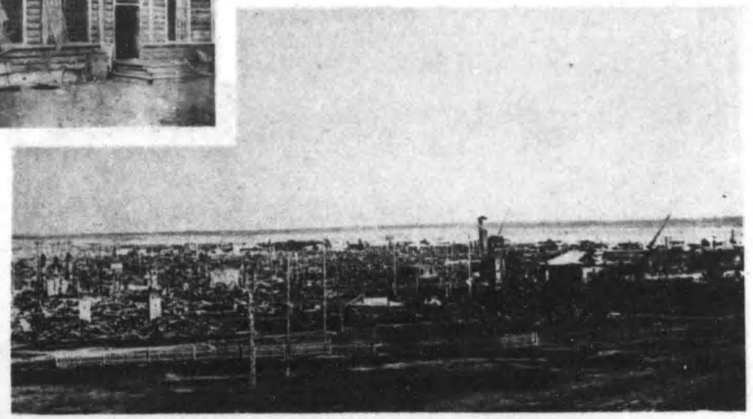


上、獄壁に貼られたる同胞の遺書

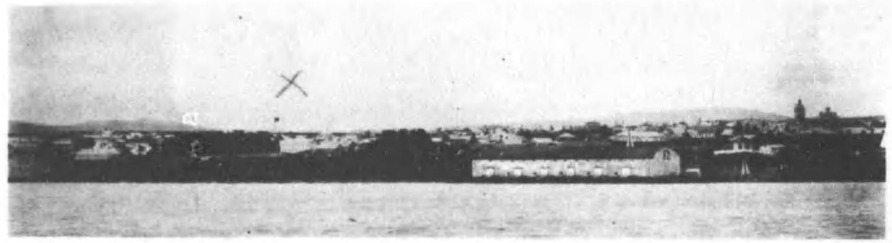
獄に逃時午後六時で書かれてあるよつてつ、即ち面壁には6字と書かれてあるの。同胞四百四十名の中、壁より引出されて殺戮されたる事は明かである。（參謀本部撮影）

下、焼き拂はれたるニコラエフスク

同胞百四十名の呻吟せる牢獄（上）



露國は歴史中最大の革命は一九一七年に露國白衛軍の反革命に乗じ各地に蜂起し政治的に自由を得たるも、ソヴエツト政府は直ちに赤衛軍を組織し、ウラジオストクに立つて白衛軍と戦ひ、ハバロフスクに於ては日本軍と戦ひ、ニコラエフスクに於ては日本人居留民を虐殺し、ニコラエフスクの石川大隊は、大正八年六月六日



ニコラエフスク市全景（×印は日本領事館）

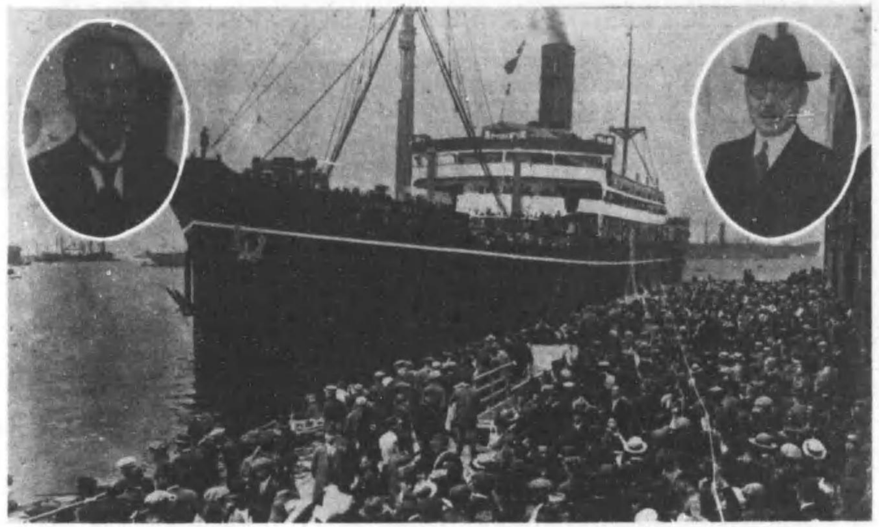
尼港日本領事館全景（石田家蔵）

第一陣地となれる日本兵營（右）

九段坂上の殉難記念碑と遺児石田芳子（左端）

追悼會に於ける原首相

殉難せる石田領事一家及び館員（石田家蔵）
前列左端領事石田虎松氏　三人目夫人幾子と二女うらき子
後列右端島田商會主島田元太郎氏。



勞働使節の出發。十月十日伏見丸にて横濱出帆の右樺太代表鈴田榮吉、武藤山治両氏

大正八年十月十九日米國ワシントンに開催の第一回國際勞働會議出席員（殿堂大學藏）

樺太代表の出發

十月十日横濱出帆伏見丸出帆前の反對示威運動と樺太卯平氏

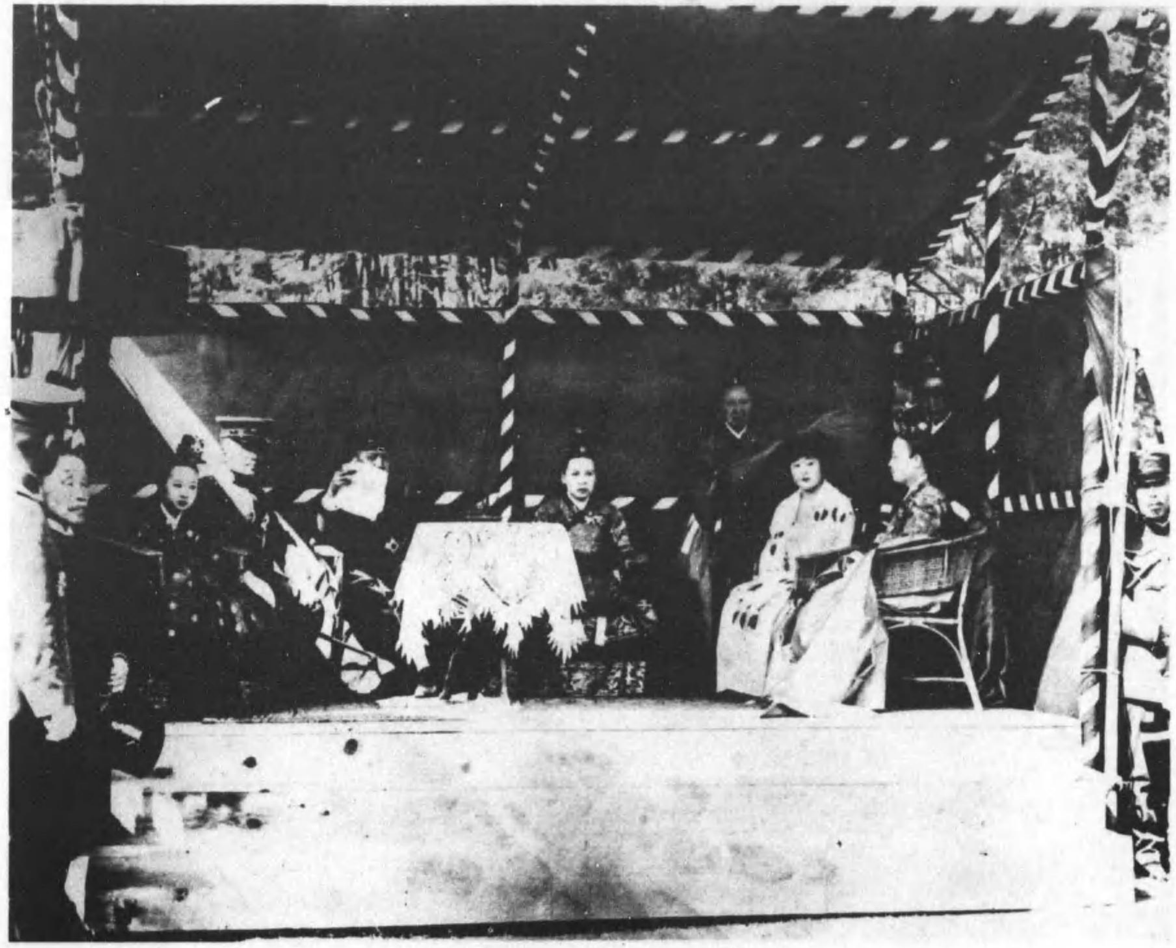
婦人顧問　田中孝子夫人

勞働者代表樺太氏反對運動（左）

大正八年十月五日友愛會及び帝大法科生指導の樺太代表反對示威行列。農商務省前行進

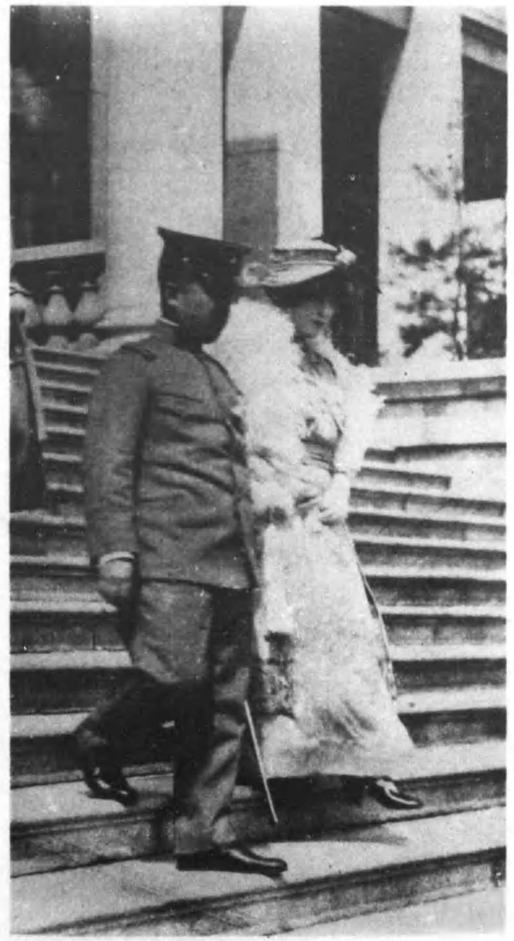
大正八年十月廿九日より米國ワシントンで開かれた第一回國際勞働會議に我は國府政はりより委員として氏吉榮田鈴代表武藤山治氏が定まつたが勞働代表の工學士樺太卯平氏
に賀本家代表の出發。氏吉榮田鈴代表武藤山治氏が定まつたが勞働代表の工學士樺太卯平氏
つていは友愛會を始め勞働團體の反對あり十月五日東京明治座で開かれた對反演大會に會愛友の會演講の鈴木文治氏等の指揮の下に芝公園より場會まで大示威運動を起し氣勢を擧げ
十月十日の横濱出帆の日には組員に到達した樺太卯平氏は警官の下に群集の目を掠めて乘船した樺太代表は顧問として田中孝子夫人婦人顧問の目には横濱の埠頭に

李王世子殿下の御婚儀



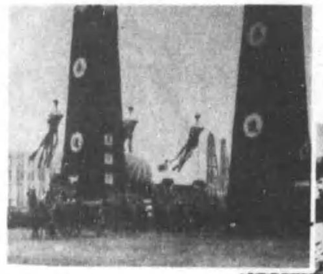
大正十一年五月七日京城王城內石造殿に於ける閑殿下御成婚の御披露會
向つて右より。李調公紀。李王紀。李王。王世子。德惠妃の各殿下。

大正十一年五月五日昌德宮園遊會に於ける李王世子及び妃殿下(下)



大正九年四月二十八日李王世子坦殿下は我梨本宮方子女王殿下とのご婚儀を行はれ、歴史的にも亦政治的にも深く關係ある日鮮兩國の永遠の融和であつて國を挙げて祝福し、而して十年八月十日晋殿下の御誕生あり、十一年四月二十三日兩鮮王李鮮兩王殿下は晋殿下を伴はせて御對面があつた。五月五日大園遊會、七日御披露會は盛大に催され日鮮兩國人の歡喜の極にあつて晋殿下の御急病にて薨去せられたのは哀悼の極であつた。

東宮殿下の御外遊（一）



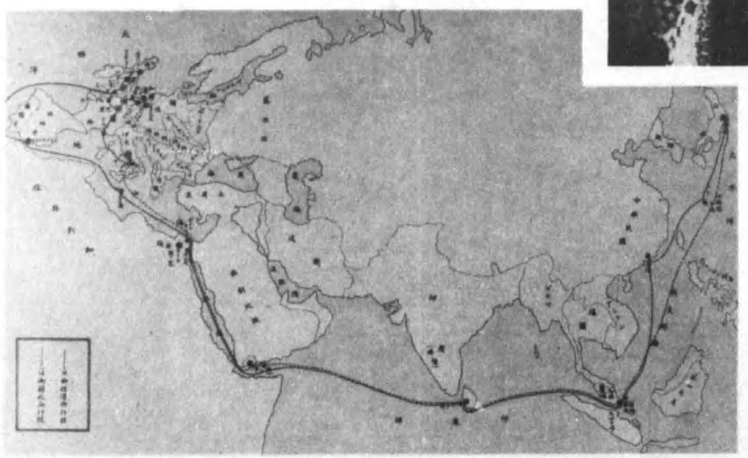
東京驛前の奉送門（左）

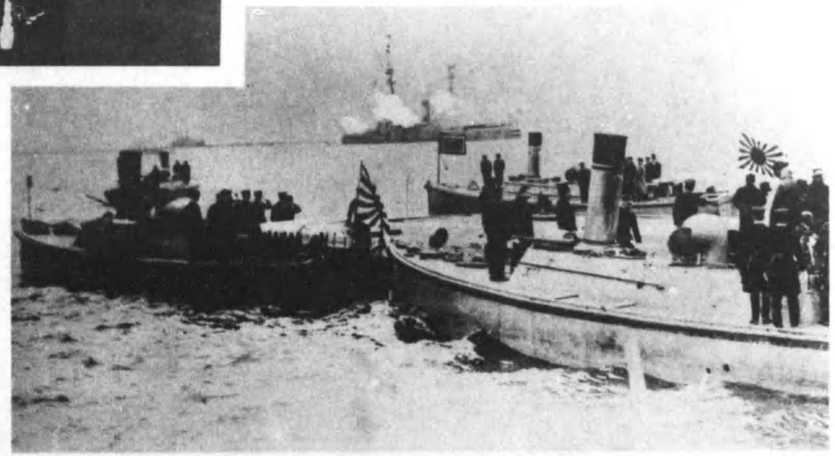
琉球御上陸（右）
三月六日午後一時半琉球首里城に向はせられ御供爵邸より御出門の殿下、彼方は閑院宮殿下御渡歌場圖（下）

海軍御正裝の東宮殿下（今上陛下）

下殿の過遊御沼田三（上）
大正十年三月三日午前八時三十分高輪御邸出門三田聖坂より東京驛に向はせられる。

射發砲禮鳥の取香と艇召御（下）
午前九時廿五分東京御發車十時十二分橫濱着御直ちに艦水雷艇にて御召艦香取に御乘艦あらせられた。

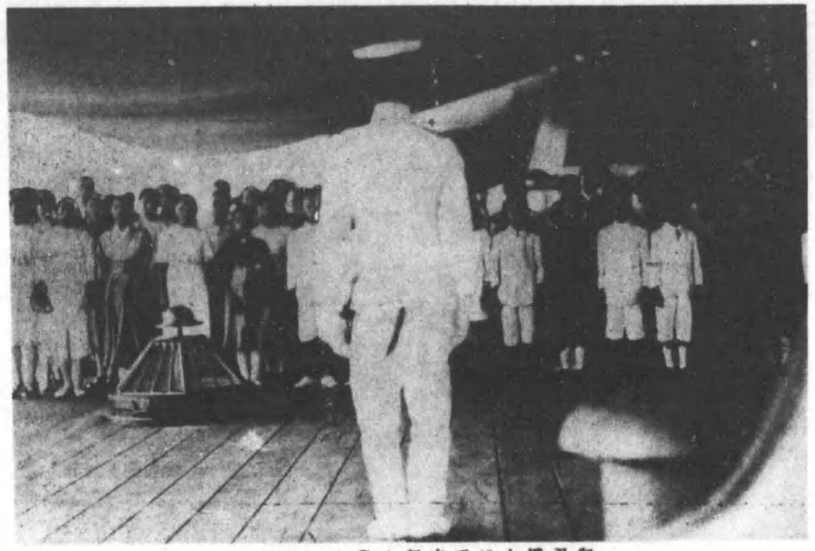




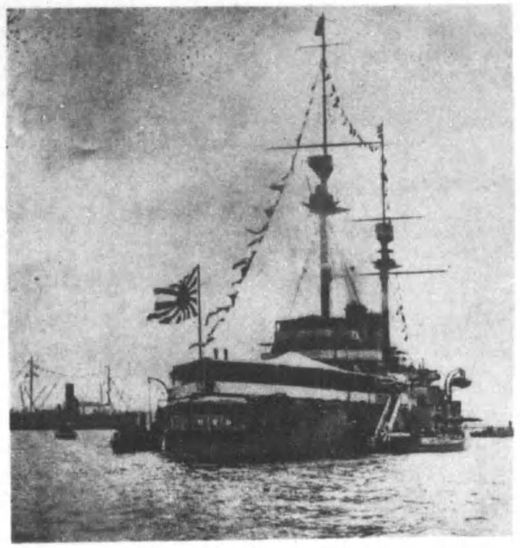
大正十年三月三日東宮殿下御歐洲御巡遊の有史未曾有の壯擧であつた。當日海軍少將佐藤鐵太郎長侍從武官を召され江侍從武官を召され服禮常服の御陸上の御乘艦香取に御乘艦し、十時三十分御出門の東京驛に向はせられ、橫濱港に碇泊中の御召艦に御乘艦し、十時十分御出發の東京驛に向はせられ、橫濱港に碇泊中の御召艦に御乘艦し、十一時三

東宮殿下の御外遊（二）

セイロン島カンデイ植物園御覽遊御殿下の中の御覽九日御遊御目廿日月三
閣は左。



御召艦上にて在留小學生に賜餐
三月廿日午後シンガポールに在留邦人小學生五十五名に特に御召艦上にて拜謁を賜ひ御付印
られ且つ御菓子を賜つた。



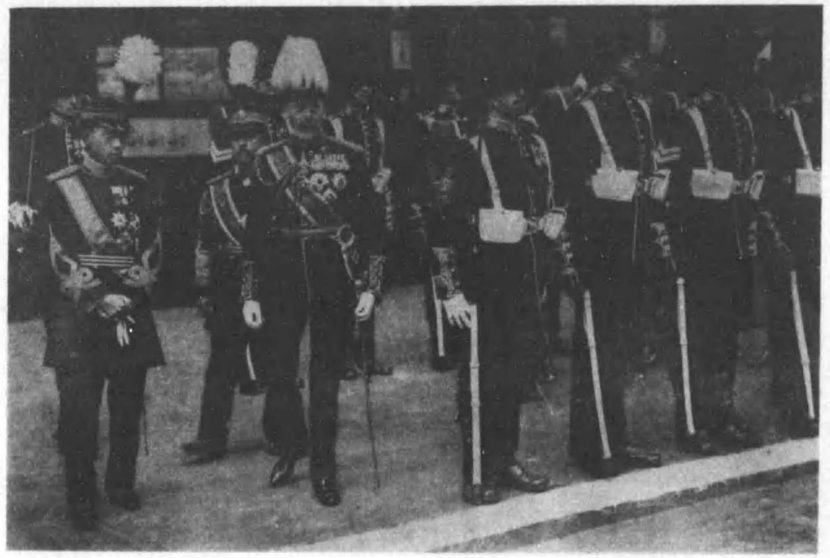
御召艦香取（横濱岸壁にて）

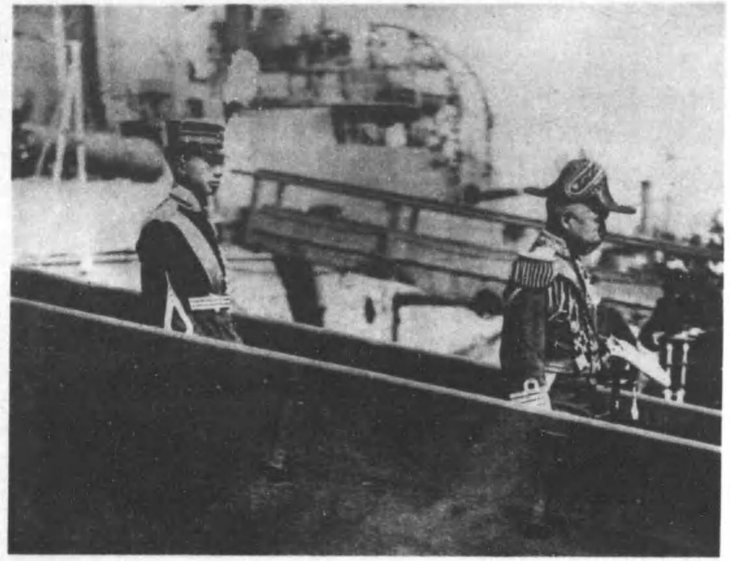
スフインクス御撮影中の殿下四月十八日所からの熱風に砂塵濛々咫尺をも辨ぜざる中に自動車にてギゼーのピラミツト御見物あり、寶眞は同所のスフインクス御撮影中の有樣である。

エヂプト、カイロ博物館前の殿下四月十九日埃及カイロ博物館御見學あり、寶眞は同館附屬圖書館御退出の有樣。

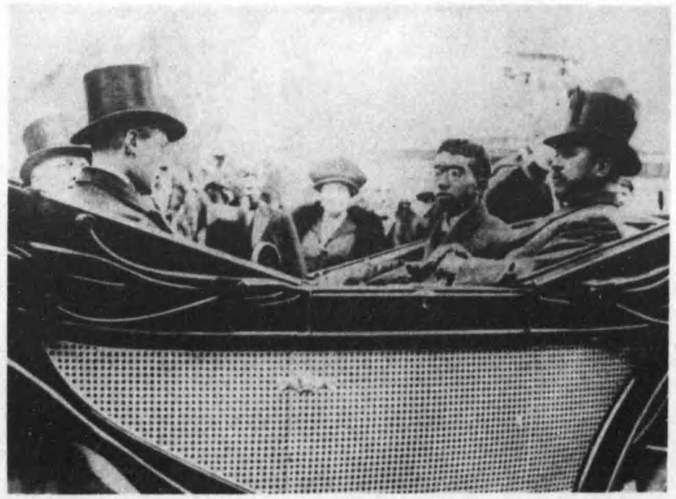
大正十年三月十三日香港御出發、十八日シンガポール着英艦ホーキンス號の迎出あり、在留邦人一千餘名は三井物産の明智丸に乘り込み御召艦に近付き萬歲を三唱したが此日は
御上陸遊ばされず十九日ジョホールを御訪問、廿日博物館御見學あり、二十日御訪問あり二十一日御出發、二十四日マルタ島御入港、此所にて英國第四艦隊子盡ロロ
總督プレンビー將軍の案内として大ピラミツトを御見物、十九日埃及王及埃及政府に行啓ヤセーカイロに向はれたる。
親王と御會見あり、四月三十日ジブラルタルに着し、五月三日御發英航國に向はせられたる。

東宮殿下の御外遊（三）

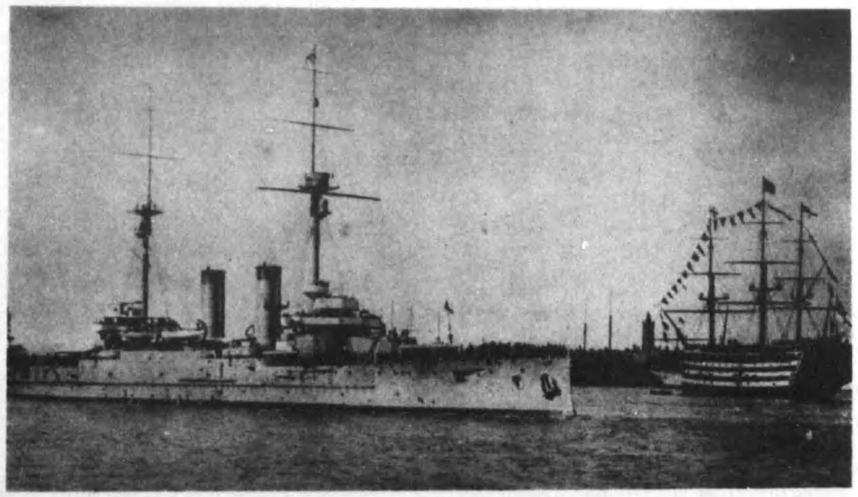




大正十年五月九日スピットヘッド卿よりポーツマスへ進航中の御召艦香取とネルソンの旗艦ヴィクトリー號左舷の殿下
五月九日御上陸の殿下で御先導は山本海軍大佐



五月十日英國皇太子と御同乘バッキンガム宮殿下よりウインゾル宮に向はせらる。
右、ウインゾル宮殿に向はせらる上、ヴィクトリア停車場の御閲兵
五月九日午後零時四十分ロンドン市ヴィクトリア停車場御到着、英國皇帝陛下と共に近衛兵を御閲兵中の有樣。



大正十年五月八日御召艦のセッセックスの艦隊及び飛行隊の歓迎あり一夜此所にて御假泊あり翌九日午前八時ポーツマス港内に入り殿々たる礼砲轟響に南波止場に横付となるや英國皇帝陛下ジョージ・ヴェーエルス殿下は召艦に御來訪あり固き握手を交はさせらるゝ。其れより英皇帝陛下と御同列同港御發車後午後零時四十分ヴィクトリア停車場御着、英國皇帝陛下と御握手あり各隨員御紹介の後、宮廷馬車に御同乘バッキンガム宮殿に向はせらるゝ、在留邦人は此日特に宮殿前に奉迎を許されたれでの日本人でのみ我國旗を振り歓呼し「萬歳」を奉迎したものもあつた。

東宮殿下の御外遊（四）

五月九日ビクトリア停車場より英皇と御同乗バツキンガム宮殿に向はせらる

五月九日ホワイトホールの世界大戰戰死者記念塔に花環を捧げ御拜殿遊ばさるゝ殿下。

五月十八日ケンブリッヂ大學より名譽法學博士の學位を贈られ給ふ（右）

ロンドン市より拝受の獅迎文入黄金匣。御名の御頭字を象嵌してある。

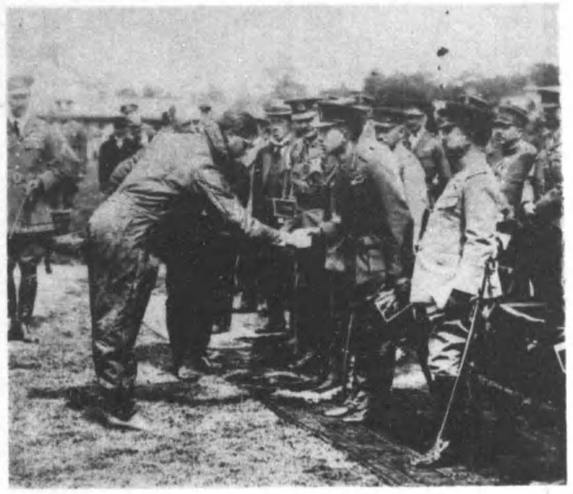
バツキンガム宮殿前に奉迎する在留邦人（左）

大正十年五月九日午後一時バツキンガム宮殿に殿下を御出迎あり、次いで正式に大正天皇陛下と御面對あり、午後五時再び御親戚王殿下及び后皇太子ルイ、ホロイトホーフ、ウエスミンスタアー寺院御歴訪の後、ウエストミンスタアー寺院に殿下を御出迎

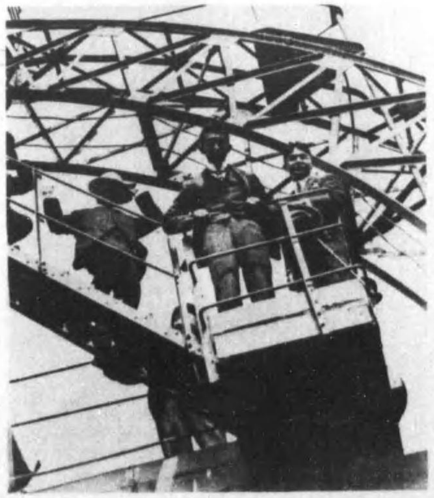
東宮殿下の御外遊（五）

エヂンバラ古城を訪はせ給ふ（五月十九日）

首相ロイドヂョーヂ氏別邸御訪問（五月十五日）



ヘンレー飛行場御訪問（五月十六日）



エッフエル塔御遊覽（六月二日）

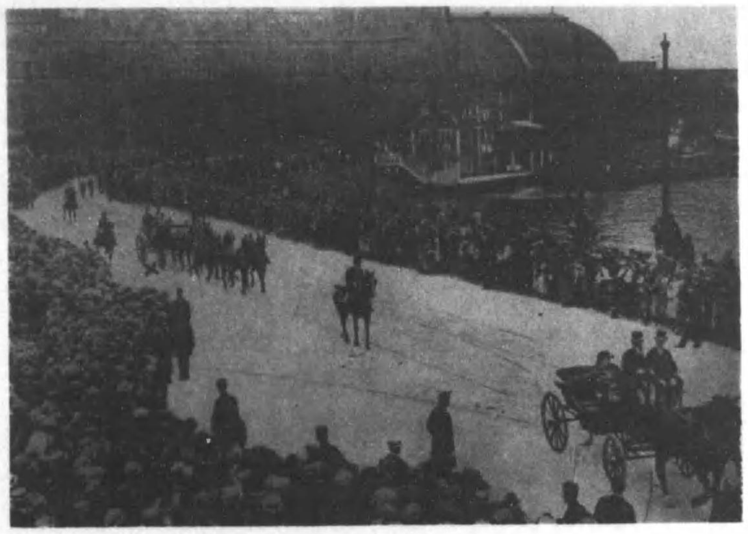
ヨエーザエ戰跡御親察（六月三十日）

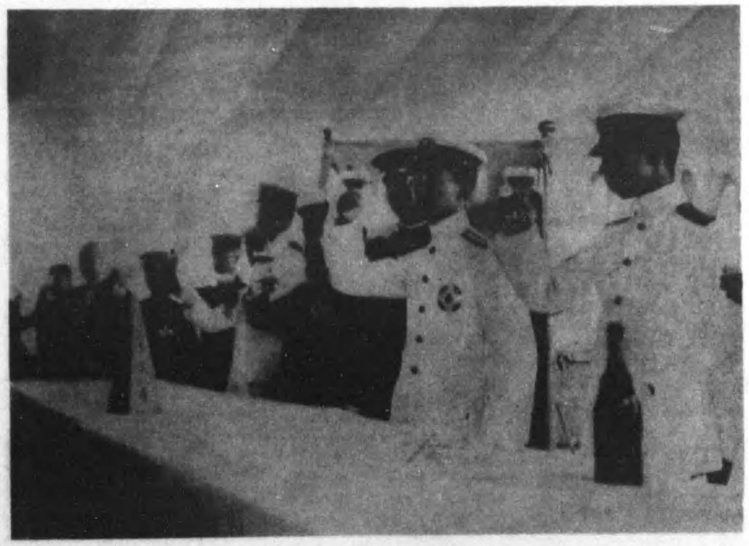
ブラツセルの博物館御巡覽右端はベルギー皇帝陛下（六月十一日）

五月十四日オツクスフオードの大學を訪問遊ばされ、十五日にはロイド・ジョーヂ氏別邸（チエツカース在）に成せられて牛日を過ごされ、十六日ヘンレー飛行場にて壯快なるエア・デイスプレーを御覽、翌十七日はオルダーショットに御臨兵、五月十九日コツトランド御巡遊、五月廿九日英國より佛蘭へ御出發、六月一日大統領御訪問、六月十日白耳義ブラツセル御訪問あり十三日ヨエーザエ要塞の戰跡を御覽、十四日にはアントエープに行啓、同市より市を河をクルケストルトに御航遊船の後にブラツセルに御歸還になり翌十五日オランダに向け出發たつなに。

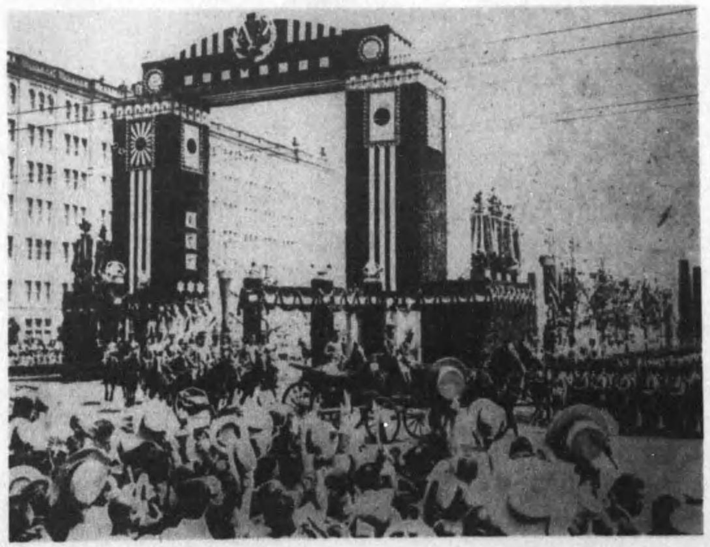
東宮殿下の御外遊（六）

（右）オランダ國アムステルダムに御着、王宮に進かせらるゝ殿下（六月十五日）
（左）ローマ御着の殿下　エマヌエル三世陛下と御同乗キリナーレ宮殿に向はせらるゝ殿下（七月十二日）





（左）横濱御安着香取艦上にて乾杯遊ばさるゝ殿下　右より高松宮、東宮殿下、今上陛下、淳宮閑院宮の各殿下（九月三日）



（右）萬歳聲裡に東京に御還啓　九月三日此日始めて萬歳を唱ふる事と御寫眞を拜寫する事を許された。

六月十五日午後五時オランダのアムステルダムに御着直ちに王宮に向はせられ女王ヴイルヘルミナと御對面あり、二十二日和蘭首都巴里を經て七月八日ローマ港軍艦より礼砲、十一日ナポリに御入港十二日ローマ御出發の地巡遊の後九月十九日ネーブルスに向はせられ九月三日午後五時横濱に御旅程を終せられ、横濱より東京御所迄沿道を埋むる赤子の怒濤の如き萬歳の聲に迎へられつゝ無事御歸京になつた。御歸朝に際して從來禁止であつた萬歳を唱ふる事や不敬に渉らざる限り當日限りで個人の寫眞器にて御英姿を拜寫する事等を許可されたのは宮内書内の英斷としてて大好評であつた。

Chemins de Fer Paris-Lyon-Méditerranée

VOYAGE

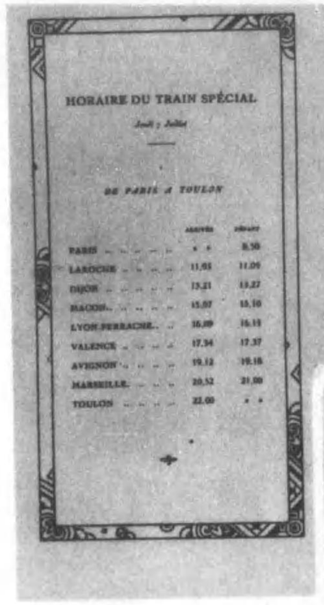
DE

SON ALTESSE IMPÉRIALE

Le Prince Héritier du Japon

DE PARIS A TOULON

7 Juillet 1921

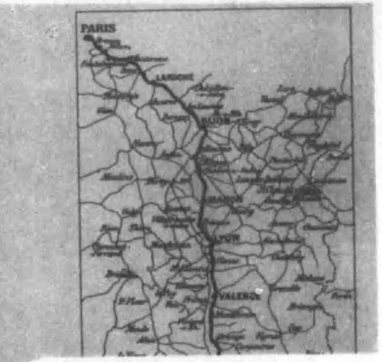


HORAIRE DU TRAIN SPÉCIAL

Jeudi 7 Juillet

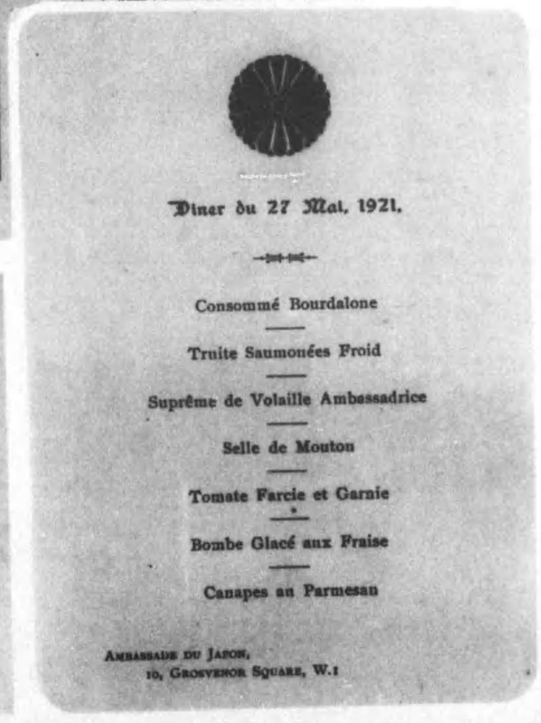
DE PARIS A TOULON

	ARRIVÉE	DÉPART
PARIS	* *	8.50
LAROCHE	11.01	11.06
DIJON	13.21	13.27
MACON	15.07	15.10
LYON PERRACHE	16.09	16.13
VALENCE	17.34	17.37
AVIGNON	19.12	19.18
MARSEILLE	20.52	21.00
TOULON	22.00	* *



パリーよりツーロンに出る御日程表

右側は地圖と御發着の時刻表で二十四時間制で「午前」「午後」の別がない。左端は御日程表の表紙で金と黑との二色刷である。



Dîner du 27 Mai, 1921.

Consommé Bourdalone

Truite Saumonées Froid

Suprême de Volaille Ambessadrice

Selle de Mouton

Tomate Farcie et Garnie

Bombe Glacé aux Fraise

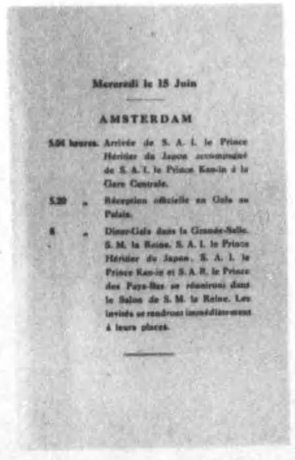
Canapes au Parmesan

AMBASSADE DU JAPON,
10, GROSVENOR SQUARE, W.1

バス勳章御佩用の東宮殿下

英皇より御贈遊ありたるバス勳章御佩用の御英姿（英國にて御撮影の御寫眞）

左、註英大使主催の奉迎晩餐會の試立表



Mercredi le 15 Juin

AMSTERDAM

5.04 heures. Arrivée de S. A. I. le Prince Héritier du Japon accompagné de S. A. I. le Prince Kan-in à la Gare Centrale.

5.20 „ Réception officielle en Gala au Palais.

8 „ Dîner-Gala dans la Grande-Salle. S. M. la Reine, S. A. I. le Prince Héritier du Japon, S. A. I. le Prince Kan-in et S. A. R. le Prince des Pays-Bas se rendront dans le Salon de S. M. la Reine. Les invités se rendront immédiatement à leurs places.

VISITE

DE

SON ALTESSE IMPÉRIALE

LE PRINCE HÉRITIER DU JAPON

à

SA MAJESTÉ

LA REINE DES PAYS-BAS

15—18 JUIN 1921.

和蘭に於ける御日程表

右は御日程表の表紙で左は御日程の順序書の第一頁である。

東宮殿下御外遊中選擇御洋服類はロンドンのメーン・ブールヘンに於て仏蘭西人ドツ社の御用を仰付られ、ドレスコートは二磅、背廣は二磅、モーニングは二磅、フロックは二磅、タイニンは二磅、ボイは二磅、オーバーコートは二磅で一磅當時五百十五圓（砂糖）陸軍海軍服は服部神戸ドツ社代理者が御召艦に出張し御伺に合せて上申調製せるものなり。承拜と砂糖は全部金玉堂に於て仰付られたるものなり。

又御旅行に行いつてはトーマス・クック・エンド・サンドンが社會を命用御佩用を仰付られたるものなり。

大正年間の著名なる音樂家

作曲及び指揮者
近衛秀麿氏

作曲及び指揮者
山田耕作氏

ピアノ、久野久子女史

右、ヴイオリン。
中田延子女史

上、三浦環女史
大正七年十一月八日米國ニューヨークに於ける米國女流音樂家招待會に於ける女史

大正十四年四月二十五日歌舞伎座にて開催の日露
交驩大管絃樂會

ピアノ、小倉末子女史

映畫實演の台覽・大正映畫界の人々

映畫界最古の俳優尾上松之助

『碁井櫻』演實助之松

大正十年十二月八日御覽の赤坂育博物館中の活動寫眞或は寫眞動活の中間に會覽者に尾上松之助一派は碁井櫻決闘を上演し當時宮内省
在ましし配上陛下の御覽を賜り映畫界未曾有の光榮に浴したし。

(下) 九十日譜

(上) 子ミス島栗

(下) 人草山上

(上) 洲櫻川早

(下) 子米井酒

(上) 一嘉木山

『活映』がたつなに様るれは行に世く廣らかてけつを前名ふ云と『眞寫動活』に『フラアトマネシ』が極櫻地編れさ入輸が械機るな『ブーコスタイアダ』のンソザエは眞寫動活の國我
くなも間がたし演出に迄も子磨須井松で始がのたし入輸をのもの明發ンソザエが社會ンホトネキ本日は眞寫動活聚發。るあでらかてつ入に正大はのたつなに様るれは行が稱名ふ云と
竹松の日今てげ擴を模規がれ之れさ立設が社會式株眞寫動活色然天、得を氣人てれさ入輸に年初の正大がのもの明發氏開スミス、ンバーアは眞寫動活色然天。たつましてれ演が社會
キネマ株式會社りなと社會式株眞寫動活本日がのもたし同合の尊社會ーテバM、愛實編、會廣田横の期末治明、。るあで社會式株眞寫動活本日がのもたし同合の尊社會ーテバM、愛實編、會廣田横の期末治明

名士のおもかげ

金子堅太郎

波多野敬直

浜邊千秋

田中光顯

土方久元

辻新次

大京穀徳

林董

青木周蔵

井上馨

山尾庸三

佐野常民

野村靖

渡邊國武

井上毅

岡部長職

教育界の名士

新島襄

中村正直

加藤弘之

山川健二郎

高田早苗

鎌原錦二郎

江原素六

福澤諭吉

梅謙二郎

岸本長雄

富井政章

菊地大麓

加藤玉蘭

新渡戸稲造

杉浦重剛

新渡戸

佐藤昌介

岡野敬二郎

大正七年

八幡製鐵所疑獄事件

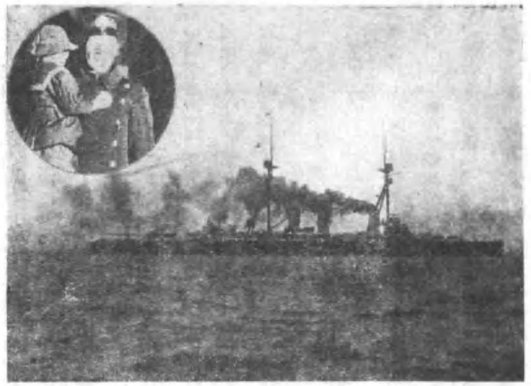
八幡製鐵所を始めとし、九州鐵道管理局、福岡鎮務署等に關する芳ばしからぬ兎角の說が行はれ、高級官吏以下及び是等に關係の商人に關する賄賂問題など頻りに傳へられたるが、製鐵所長官押川則吉は當時議會に於ける仲小路農相の態度に憤懣すとして、二月十三日口頭を以て辭意を述べ、爾來東京府下大崎長者丸の自邸に引籠りつゝあつたが、同月十八日午前九時自邸の湯殿に於て縊死を遂げた。原因は製鐵所の疑獄事件に關したものであるといふ越へて同月二十七日白仁武が製鐵所長官に任ぜられ特に親任官の待遇を賜ふた。而して翌月の三月六日に至り前記九州鐵道管理局、製鐵所、福岡鎮務署の高官、及商人等は賄賂受授事件の爲め檢擧されたのであつた。

製鐵所長官押川則吉

軍艦「河內」の爆沈

我海軍に於ける意義深く記念すべき最初の弩級戰艦たる「河內」は、周防國德山灣に碇泊中、七月十二日の午後三時五十七分、突然艦體中央部に爆發起り、僅に四分間にして全然沈沒し了つた。同艦は「攝津」の姉妹艦で、明治四十五年三月三十一日進水を了し、排水量二萬八百噸、馬力二萬五千馬力、速力二十節、主砲十二吋十二門、六吋十門、全長は五百呎、最大幅は八十四呎、吃水二十八呎で、橫須賀海軍工廠に於て建造されたものである。原因は中央部に在りし重油槽が艦內の溫度變化と艦の動搖の爲め發火し火藥庫に燃え移りて爆沈するに至れるものであるといふ。當時この奇禍によつて殉死せる者は飯島機關長外六百十一名であつた。遭難の翌々日、十四日午後四時五十分吳海軍鎭守府にては、軍艦河內の爆沈に付き左の如く發表した。

十二日荒天の爲め航行行動を取止めて山口縣德山沖に碇泊中、午後五時三十分前部右舷に當り一大音響を發すると共に煙突附近に、恐ろしき黃煙を發し、僅か四分の後深水七尋の所に急傾斜を爲し、爆音と共に沈沒したり、此の慘憺たる刹那に當り乘組員一同は少しも狼狽せず、極めて沈着なる態度を以て應急處置に盡瘁し、總て上級者に對して、木片或は海中に浮びつゝある木材等を讓り合ひて救助に努め、上下整然として事に當りたり、午後四時頃に至り吳鎭守府よりは潛水夫及之に關する器具等を救助船に乘せて遭難地に急航せしめたり、而して十三日午後十一時重輕傷者八十一名を以て海軍病院に收容したるが、此內重傷者五十九名、輕傷者二十六名なり、其後續々として屍體は發見されつゝあり、又十四日午前吳海軍病院に入院したるものゝ中よりも七名の死亡者を出せり、一方吳軍港に於ては鎭守府及海兵團員を以て多數の葬儀委員を設けて之が準備を爲しつゝあり、又畏くも陛下には四籠侍從武官及び東宮武官を態々吳海軍鎭守府に御差遣相成り兩武官は海軍病院に臨みて重傷者を見舞ひ御菓子料を傳達せられたり。越へて同月二十一日午後一時、前記艦長外六百十三名の海軍葬は吳海兵團練兵場に於て執行された。



爆沈せる河內艦と艦長正水義太大佐

英國コンノート殿下御來朝

六月十八日英國皇朝アーサー・オブ・コンノート殿下は、日本天皇陛下に元帥杖棒呈の御使命を奉ぜられて御來朝、此日東京驛に御着あり、大正天皇には同驛に出御御出迎へあらせられた。斯くて翌十九日コンノート殿下には宮中に參內、大正天皇に元帥杖を棒呈あらせられた。是より先、此年一月二日英國皇帝陛下より、我が天皇陛下に、英國元帥の班位に列せられんことを冀ひ給へる御親電あり、大正天皇には右御親電に對する御答電と共に、英國皇帝陛下に、日本元帥の稱號を贈進あらせられた。這回のコンノート殿下の御來朝は

蓋し之に基くものであることは言ふ迄も無い。斯くして日英兩帝國は益々親密の度を加へたのである。

富山外五縣下の米騒動

七年後半期に入りて米價は漸次騰貴を續し一升二十五錢より四十五錢に激騰し、之が爲め各地に不穏の叫びを擧ぐるに至つたが、八月六日富山縣滑川町にては、同町漁夫の女房達の一團によつて米騒動勃發し市中の米屋を襲撃したるが、日を經るに從つて勢力益々加はり、殆んど手の付けやうなき有樣であつたが、此の勃發が誘因となつて、高松市、岡山市、堺市等に同樣の騒動興り、次いで名古屋、京都、大阪の三市に及び、更に兵庫、備後三須に波及し、之れが爲め遂に軍隊の出動を見るに至り、尚同月十二日には豐橋市、十三日には東京市内にも亦勃發し市内の米商店は日沒頃より軒燈を消し堅く戸を閉鎖して、襲撃團の殺到を避くる狀態であつた。斯くして米騒動は殆んど全國の各都市に蔓延し、中には燒打、殺人、强盜なども行はれ頗る危險性を帶ぶるに至つたのであつた。以上各地の米騒動の原因に就ては敢て一樣ならざるも東京市の如きは米商の買占に基因せる米價の暴騰に在るものゝ如く、當時農商務省にては津市の岡半右衛門、東京の岩崎清七、小幕藤五郎等に對して買占に關して警告を與ふる所があつた。又政友會にては八月十日元田、野田の兩總務は寺内首相を訪問して米價問題につき警告する所があり、井上東京府知事は同月十二日より朝鮮米廉賣を決定した。

天皇、皇后兩陛下には人民困厄御賑恤の思召を以て御内努金三百萬圓を下賜あらせられた。

日本軍艦陸戰隊の浦鹽上陸

曩にレーニンの過激派によつて革命を敢行せる露國は遂に同派によつて其政權を掌握したるが、同派の過激思想は全歐洲に勢力を扶植し、更に進んで西比利亞に發展し、同地に在る獨墺の俘虜中、九萬五千人は露國の革命勃發後は無監視の狀態に置かれたるを奇貨とし、起つて過激派に參加したので同派の勢力は益ゝ增大となり、爲めに東洋の保安は頗る脅威さるゝに至り、延いて日本の西伯利出兵は痛切を感ずる事となつた。一方浦鹽に於ける秩序は甚だしく紊亂し危險は日一日と加り、折りしも同地の日本商店は暴徒の襲撃を蒙りて日本人三名殺傷されたる椿事あり。之が爲め豫て警備の任を以て同港に在泊せる日本軍艦は同胞保護の爲め、直ちに陸戰隊を上陸せしめて機宜の處置を採る事となつた。同時に英國軍艦も亦陸戰隊を上陸せしめた。其の上陸宣言は左の如くである。

陸戰隊上陸宣言

『日本司令官は聯合與國と共に露國現下の國情に深甚なる同情を寄せ速に此の國難を驅除せんことを希望して止まざる所なり故に露國の内政に干與し政派の一方に對して不自然なる援助又は威壓を加ふる如きは徒らに露國々運の進展を阻害し國民の理性に從ふ適當の歸結を得ざらしむるものとして絶對に此の如き行動を取るを避け隱忍以て今日に至れり然るに近時當地の政爭益々激甚となり其極遂に擾亂の勃發を免るゝ能はざるに至らん事を深憂し而して今や市中の保安に任ずる必要機關の紊亂に伴ひ市中に秩序なく殆んど無警察に類するの狀態に陷れるを見、密かに在留日本帝國及聯合與國臣民の生命財産に就き危險の念なきを得ざりき不幸にして今回圖らずも日本人民三名の殺害事件の發生せるは日本司令官をして自己の責任を以て日本帝國臣民の生命財産の保護に任ぜざるべからざるに至らしめたり依て日本司令官は其の麾下の陸戰隊を揚陸し自ら適當と認むる措置を執ると共に今後の處置に付き本國政府に請訓中なりされども日本司令官の採りたる處置は單一に日本臣民の保護に存するを以て玆に重ねて日本司令官は露國政府及國民に對し敦厚なる友誼と同情との念切にして又他意あらざることを表白し露國臣民が何等の不安なく各々其堵に安んじ日常の如く各自の職業に從事せんことを希望するものなり。』

浦鹽派遣軍の出發

斯くの如くにして浦鹽の形勢は極めて危險に逼まつたので我政府にては聯合與國との間に數回の交渉を重ねたる結果、相互意志の一致を見たるを以て八月一日愈ゝ玆に態度を決し、翌二日左の如く西伯利出兵を宣言した。

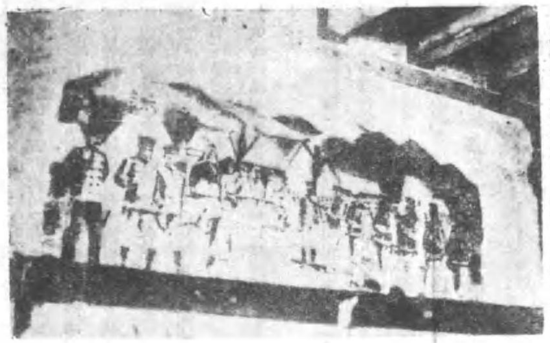
『西伯利出兵宣言書

帝國政府ハ露國並露國人民ニ對スル舊來ノ隣誼ヲ重ンシ露國ノ速ニ秩序ヲ恢復シテ健全ナル發達ヲ遂ケンコトヲ衷心切望シテ止マサル所ナリ然ルニ近時露國ノ政情著シク混亂ニ陷リ復タ外迫ヲ防禦スルノ力ナキニ乘シ中歐諸國ハ之ニ壓迫ヲ加フルコト愈々甚シク其

ノ威壓遠ク極東露領ニ浸漸シテ現ニチエツク・スローヴアツク軍ノ東進ヲ阻碍シ其軍隊中ニハ多數ノ獨墺俘虜亜入シ實際ニ於テ其ノ指揮權ヲ掌握スルノ事跡顯然タルモノアリ、抑モチエツク・スローヴアツク軍ハ夙ニ建國ノ宿志ヲ抱キ終始聯合列强ト共同對敵スルモノナルガ故ニ其安危ノ繫ル所延テ興國ニ影響スルコト尠シトセス是レ聯合列强及合衆國政府ガ同軍ニ對シ多大ノ同情ヲ寄與スル所以ナリ今ヤ聯合列强ハ同軍ガ西伯利方面ニ於テ獨墺俘虜ノ爲メ著シク迫害ヲ被ムルノ報ニ接シ宜シク拱手傍觀スルコト能ハス業ニ已ニ其兵員ヲ浦鹽ニ派遣シタリ合衆國政府モ亦同シク其ノ危急ヲ認メ帝國政府ニ提議シテ先ツ速ニ救援ノ軍隊ヲ派遣センコトヲ以テセリ是ニ於テ帝國政府ハ合衆國政府ノ提議ニ應シテ共ノ友好ニ酬ヒ且今次ノ派兵ニ於テ聯合列强ニ對シ歩武ヲ齊フシテ履信ノ實ヲ擧クル爲メ速ニ軍旅ヲ整備シ先ツ之ヲ浦鹽ニ派遣セムトス叙上ノ措置ヲ取ルニ方リ帝國政府ハ一意露國及露國人民ト恒久ノ友好關係ヲ更新センコトヲ希圖スルヲ以テ常ニ同國ノ領土保全ヲ尊重シ併セテ其ノ國内政策ニ干渉セサルノ既定主義ヲ聲明スルト共ニ所期ノ目的ヲ達成スルニ於テハ政治的又ハ軍事的ニ或ノ主權ヲ侵害スルコトナク速ニ撤兵スベキコトヲ玆ニ宣言ス。

大正七年八月二日

各大臣連署



ニコリスク兵會内の反日ボスボー

斯くて我が第十二師團先頭隊送團は同月十一日浦鹽に上陸した。而して我浦鹽派遣軍司令部は左の如く編成されたのであつた。

浦鹽派遣軍司令官陸軍大將大谷喜久藏、同參謀長陸軍中將由比光衛、同司令部附陸軍中將武内徹、同參謀陸軍少將中島正武、同陸軍少將稻垣三郎、同歩兵大佐林彌三吉、同砲兵中佐阿部十寸穗、歩兵少佐加納重之、同長谷部照信、同河本大作、騎兵少佐蓮沼蕃、歩兵大尉藤岡萬藏、騎兵大尉土屋義幹、浦鹽派遣軍副官歩兵大佐矢部邦太郎、同歩兵少佐中山隆策、同廣良一、歩兵大尉德永乾重、歩兵中尉佐伯寅秀。

軍司令部一行は八月十二日東京驛を發して十七日浦鹽に着した。斯くて大谷大將は聯合各軍代表武官と總指揮問題に就て協議の上、大谷大將は西伯利聯合軍總司令官に推された。

爾後日本軍は機敏なる活動の下に九月四日騎兵隊はハバロフスク市を占領し、同六日には騎兵の一部はチタに進入し、次で同十八日アレキセーフスク、ブラゴヴエツチエンスクを占領した。

寺内内閣の總辭職・原内閣出現

寺内首相は來るべき議會の圓滑を圖る爲め、九月四日貴族院に於ける清和、新紅俱會の合同を策したるも不調に終り、其他種々の思はしからぬ情勢に鑑み決意する所あつて、同月十七日閣議の席上に於て辭意を表明したるが、越へて二十一日參内して辭表を捧呈し、各大臣も亦首相に辭表を提出したのであつた。此日大命は西園寺侯に降下したるも侯は四月二十五日に至り拜辭したので、越へて二十八日政友會總裁原敬は參内して、内閣組織の大命を拜受し退下後、直ちに組閣に着手し、閣員を決定し、翌二十九日親任式は擧行された、同内閣の顔觸は左の如くである。

内閣總理大臣原敬、外務大臣子爵内田康哉、内務大臣床次竹二郎、大藏大臣男爵高橋是清、陸軍大臣陸軍中將田中義一、海軍大臣海軍大將加藤友三郎、文部大臣中橋德五郎、司法大臣(兼任)原敬、農商務大臣山本達雄、遞信大臣野田卯太郎、内閣書記官長高橋光威

東伏見宮殿下御渡英

東伏見宮依仁親王殿下には、英國皇帝陛下に元帥佩刀并に元帥徽章御贈進の爲め遣英特使として九月二十八日御渡英、井上侯以下隨員と共に御着英あらせられ、二十九日バツキンガム宮殿に於て我が天皇陛下より英皇帝に御贈進の元帥章に添へる御親書を捧呈あらせられた。斯くて東伏見宮殿下には御使命を全うせられて翌八年一月七日サイベリヤ丸にて御歸朝直ちに御參内御復命あらせられた。

大正八年

スペイン感冒流行す

昨七年の十二月以來流行し始めたる流行性感冒は、俗に西班牙感冒と稱せられたるが、日を經るに從ひ、其の勢ひ頗る盛んにして全國各地に蔓延し、益々猖獗を極め、僅に二ケ月間に於て東京府下のみにても千三百名の死亡者を出した。之が爲めに各病院は入院患者滿員の狀態を示し、市中の各葬儀社は棺の製造が間に合ひ兼ぬるの情況を呈したのであつた。スペイン感冒の原因は大戰中の塹壕内に發生せる惡性感冒が戰後流行したものだと云はれて居る。

李太王薨去と朝鮮の不穩

朝鮮李太王殿下には八年一月二十二日薨去遊ばされ越へて三月一日殿下の國葬の儀を執行あらせられた。此日賜誄の儀があり、翌二日欽葬前柩前祭あり、其翌三日には靈輿發引の儀があり、四日の夜より五日の朝に亘りて御埋葬の儀、六日欽葬の後、權舍祭の儀があり、七日欽葬後に於て墓所祭の儀を執行された。然るに此の日京城に於て李太王殿下の國葬儀執行を機として不穩の徒騷擾せんとするの形勢があつたので、其筋にては夙くも之を察知し、其首魁たる孫秉熙以下百六十名を檢擧した。越へて二十四日東京にても亦在京朝鮮學生等青年會館に會合して不穩の謀議を爲したるため、是等二十一名は直ちに引致された。而して朝鮮にては故李太王殿下の國葬以來引續き各地に鮮人の大示威運動行はれ、次で是等の運動が暴動と化し全道擾亂の巷となつたが六月に入りて漸く鎭靜した。

日本委員國際聯盟原則に贊成す

佛國ヴエルサイユに開かれたる媾和會議に於て出席の我が全權委員は、二月六日、日本民族に對する移民制限の全部撤廢を條件として國際聯盟原則に贊成した。

因に、國際聯盟規約は米國大統領ウヰルソン氏が媾和條約の一部たらしめんとして一九一九年一月英國倫敦に赴き其達成に就て言明し、又英國のロバート・セシル卿は國際聯盟委員として同規約組織決定の旨を發表した。次で一月二十五日媾和全權會議に於て其決議案を可決して其草案を發表したのであつた。而して列强國の國際聯盟委員は左の諸氏が決定した。

米國大統領ウヰルソン氏、ハウス大佐。英國ロバート・セシル卿、スマツツ將軍。佛國レオン・ブルジオア氏、ラルマウド氏。伊國ヨルランド氏、ウイテリオ・スキアロアイア氏。日本珍田子爵、落合謙太郎氏。

該國際聯盟規約は全部二十六條より成り。加入脱退、領土保全、仲裁裁判、爭議處理、破約制裁、爭議と勸告、條約登錄、委任統治國際勞働保護、既設機關、修正と讃否、追加規定の諸項に分たれてある。左に其の要綱を掲ぐ。

〔國際聯盟規約要綱〕

國際間の紛議は之を干戈に訴へて解決せんとせざるべしとの義務を承認し各國間の公明正大にして名譽ある關係を規定し各國政府の行爲に對する實際上の規則として國際法の協定を確立し聯盟各國間の凡ての條約義務に關し正義と嚴正なる尊重とを保持し以て國際相互の協調を緊密にし且つ國際間の平和と安全とを確立せんが爲め聯盟各國は當國際聯盟規約に同意す。

國際聯盟は當規約追加規定に署名の各國及無條件を以て當規約を承認すべきものとして右追加規定に指名されたる各國を以て其創立加入國とす。

聯盟の行動は常設書記局を有する聯盟會議及執行委員會を通じて執行さるべきものとす。

執行委員會は北米合衆國、英帝國、佛國、伊國及日本及び他に加入列國四個國の代表者を以て組織す。

執行委員會は聯盟の行動範圍に屬する或は世界の平和に影響する諸問題を討議す。

聯盟會議及び執行委員會の各第一回集會に米國大統領之を召集す、聯盟本部は之をゼネバに置く、加入各國の代表者及び聯盟役員は聯盟用務執行中は外交上の特典及び除外例に浴し聯盟或は聯盟役員或は會議列席中の加入國代表者により使用さるゝ建物其他の財産は不可侵權を有す。

加入各國は平和維持の爲めには國家の安全に適應すべき程度に於て國防を最少限度に縮小し共同行爲により國際上の義務遂行を强制すべき要あるを望む。

加入各國は聯盟加入各國の領土保全及び現存政治的獨立を尊重し外敵の侵入に對抗して之を保有せしむべき途を講ず、斯くの如き外敵侵入の場合或は脅迫或は侵入の危險有る場合執行委員會は聯盟の義務遂行の爲め其執るべき方法を獻策す。

加入各國は若し國交斷絶となるの恐れある紛爭の發生したる時は仲裁々判或は執行委員會の審議に付し且つ仲裁々判の判決或は執行委員會の報告發表後三箇月を經る迄は如何なる事情ありとも戰爭を開始せざる事を協議す。

加入各國は仲裁々判の下すべき判決は誠實完全に之を履行すべき事及び右判決に服從したる加入國に對しては開戰せざる事を協諾す

現存及び將來協定すべき國際條約に違ひ聯盟加入國は自國及び通商産業上の關係を延張接觸する總ての國の男女小兒に對し公平にして人道に協へる勞働狀態を獲得し之を維持するに努力し此目的の爲めに必要なる國際機關を設置且維持すべし。

聯盟創立加入國及び媾和條約署名左の如し。

北米合衆國、白耳義、ボルヴイア、伯立聯、英帝國、加奈陀、濠洲、南亞弗利加、南ウエールス、印度、支那、玖瑪、チエツク・スロヴアツク、エタアドル、佛國、希臘、グアテマラ、ヘイチ、（ヂヤズ、ホンヂユラス、伊國、日本、リベリア、ニカラガ、巴奈馬、秘露、波蘭、葡萄牙、羅馬尼、塞爾維、暹羅、ウルゲー。

尙當規約を承諾すべく勸誘されたる國家左の如し。

亞拉然丁共和國、智利、哥倫比亞、丁抹、ネザランド、那威、パラグエー、波斯、サルヴエドア、西班牙、瑞典、瑞西、ヴエネジユラ。

東宮殿下御成年式

東宮裕仁親王殿下には五月七日宮中に於て御成年式の大儀典を擧げさせ給ふた。東宮御成年式は去る明治四十二年二月に皇室令第四號皇室成年令の發布せられて以來、始めての御儀式である。當日東宮殿下には第一公式盧遮にて參內され、賢所御前に於て朝見式の賀宴ありて後、大正天皇より華冠を賜ふた。而して同夜は宮中豐明殿に於て文武百官を召されて盛大なる饗宴の御催しがあつた。尙貴衆兩院及び東京其他より賀表を捧呈した。又此日東京市にては御成年式奉祝の爲め馬場先門前に莊嚴なる大綠門を建設して奉祝の意を表した。又數筒を凝らした花電車を終日運轉し盛なる祝賀を催して滿都は非常な賑ひを呈した。

因に、明治四十二年二月十一日官報號外を以て發せられた、皇室令（第四號）を左に摘錄す。

皇室成年式令

第二章　皇族成年式

第九條　皇太子、皇太孫、親王、王、成年ニ達シタル時ハ其當日附式ノ定メタル所ニ依リ賢所大前ニ於テ成年式ヲ行フ但シ事故アル時ハ勅許ヲ經テ其期日ヲ延ブル事ヲ得

第十條　皇太子、皇太孫、成年式ヲ行フ當日之ヲ賢所皇靈殿ニ奉告ス

第十一條　皇太子、皇太孫、親王、王、成年式を訖りする時は天皇、皇后、皇太后ニ朝見ス

第十二條　皇太子皇太孫ノ成年式ニハ第二條第五條及第八條ノ規定ヲ準用ス云々

（第一條　期日ハ宮內大臣之ヲ公告ス。第五條　成年式ノ訖リタル時ハ皇靈殿ニ謁ス。第八條　式ヲ訖リタル時宮中ニ於テ饗宴ヲ賜フ）

第二編　皇太子成年式

賢所皇靈殿神殿ニ奉告ノ儀

當日早旦御殿ヲ裝飾ス

時刻宮內省高等官著床ス次ニ御扉ヲ開ク（此間神樂歌ヲ奏ス）次ニ神饌ヲ供ス（此間同上）次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス次ニ皇太子代拜（東宮侍從奉仕衣冠單）次ニ諸員拜禮次ニ神饌ヲ撤ス（此間神樂歌ヲ奏す）次ニ御扉ヲ閉ヅ（此間神樂歌ヲ奏ス）次ニ各退下ス

賢所大前ノ儀

時刻文武官有爵者優遇者及外國交際官朝集所ニ參集ス

次ニ皇太子綾綺殿ニ參入ス次ニ天皇綾綺殿ニ渡御　次ニ天皇ニ御服（御束帶黃櫨染御袍）ヲ供ス（侍從奉仕）次ニ天皇ニ手水ヲ供ス（同上）次ニ天皇ニ御笏ヲ供ス次ニ皇太子ニ儀服ヲ供ス（闕腋袍空頂黑幘東宮侍從奉仕）次ニ皇太子ニ手水ヲ供ス、次ニ皇太子ニ笏ヲ供ス、此間供奉諸員服裝ヲ賜フ（衣冠單）次ニ式部官前導諸員參進本位ニ就ク次ニ御扉ヲ開ク（此間神樂歌ヲ奏ス）次ニ神饌幣物ヲ供ス（此間同上）次ニ掌典長祝詞ヲ奏ス次ニ出御

式部長官宮內大臣前行シ侍從劍璽ヲ奉ジ侍從長、侍從、侍從武官長、侍從武官御後ニ候シ、親王、王、供奉ス

次ニ外陣ノ御座ニ着御侍從劍璽ヲ奉ジ寶子ニ候ス次ニ皇太子參進次ニ東宮侍從壺切御劍ヲ奉ジ東宮侍從長東宮武官長東宮武官後ニ候ス

次ニ天皇冠ヲ皇太子ニ授ク（掌典長奉持）皇太子外陣ノ座ニ着ク東宮侍從壺切御劍ヲ奉ジ寶子ニ候ス次ニ掌典長賜冠ヲ皇太子ニ加フ

次ニ天皇內陣ノ御座ニ進御次ニ御拜禮訖テ入御（供奉出御ノ時ノ如シ）次ニ皇太子拜禮告文ヲ奏ス次ニ皇太子退下（供奉參進ノ時如シ）

皇靈殿神殿ニ謁スルノ儀（賢所ト同ジ）

參內朝見ノ儀

時刻皇太子（正裝）參內

天皇皇后正殿ニ出御次ニ式部長官前導皇太子御前ニ參進恩ヲ謝ス次ニ勅語アリ次ニ懿旨アリ次ニ皇太子御板座ニ着ス次ニ御臺盞ヲ立

ツ次ニ御饌御酒ヲ供ス次ニ天皇皇后御盃ヲ皇太子ニ賜フ次ニ御箸ヲ立ツ次ニ天皇、皇后入御次ニ皇太子退下云々。

奠都五十年祝賀會

明治天皇帝都を東京に奠めきせ給ひしより、大正八年は宛も五十年に相當するので、東京市にては五月十日を期して奠都五十年祝賀會を上野公園に於て開催した。當時は大正天皇皇后兩陛下臨御あらせられ、又市中にては祝賀餘興として大名行列其他種々なる催しを爲し滿都は盛んなる祝賀氣分漲りて非常な賑ひを呈した。

因に、奠都五十年に關する種々なる興味ある記事が當時新聞雜誌等に記載されたが、大庭柯公氏の『奠都五十年』と題する一篇が東朝紙上に連載された。其中の一節を左に摘錄す。

『……日本橋の欄干の擬寶珠は縱し麒麟に代つたにしても江戸ッ兒の代表的擬人彌次郎兵衛の所謂お江戸日本橋は「天下の眞中一で」ふ感念は明治大正を通じての東京人の心裡にも依然存してをる。（中略）市街の外觀も市民の風俗も江戸と東京を通ずる三百年間に、少からぬ變化を呈しては居るが、兩國の煙花は依然として玉屋鍵屋を呼ばしめ、町内の錢湯は依然として朝湯に義太夫を唸らしめ、女湯に依然として裸一つの三助を跋扈せしめてをる。（中略）今の奥田市長は江戸の名奉行大岡越前守とまでは行くまいが、少くとも遠山左衛門尉位には當らう。江戸を東京に比して社會も人智も全く一大變化を呈したと觀察する者があるならば、そは餘りに新事物に眩惑された謗を免れぬ。お芝居の幕間にチュインガムを嚙んでゐる半玉共が、家で三味線のお稽古の際に、蜜豆を平らげる今日の東京は、總ての點に於て新舊過渡の時代であらねばならぬ。云々。』

東京朝日新聞號外

大正八年七月三十一日發行

御通知

工場員の過大の要求に對して各社申合せ不得已休刊數日間右御承知被下度此段御通知申上候也

大正八年八月一日

二六新報社
知新聞社
東京日日新聞社
東京毎日新聞社
東京朝日新聞社
東京毎夕新聞社
中外商業新報社
中央新聞社
萬朝報社
讀賣新聞社
やまと新聞社
國民新聞社
都新聞社
時事新報社

休刊通知の號外（内田茂文氏蔵）

東京市内各新聞社全部休刊

東京市内に於ける十六新聞社は各社活版部員の賃銀增給要求の結果、同盟罷業を斷行せるため遂に各社全部は休刊四日間に亘るの椿事を惹き起すに至つた。之れが爲めに市民は精神上の米の飯とも謂ふべき新聞に接するを得ずして、社會の耳目を失ひ、殆んど杖なき盲人が暗夜を探り歩むが如き感があつた。

世界平和の克復

四年間に亘り世界を擧げて戰塵に塗れしめたる世界大戰は曩に聯合國軍と獨逸國側との間に休戰條約締結され（前輯既載）されたるが次で六月二十八日午後三時より佛國ヴェルサイユ宮殿鏡の間に於て聯合國と獨逸との間に媾和條約は調印された。獨逸全權委員シュールル博士及びチール氏は二十七日夜ヴェルサイユに到着し翌二十八日の朝は信任狀の審査が行はれた。媾和條約は内容四百頁以上に亘るを以て到底朗讀すること能はざるゆゑ、佛國首相クレマンソー氏は媾和會議を代表し獨逸委員の調印に供する爲め、交付したる條約文は、先に媾和會議書記官デュクー氏に依て交付せられたるものと全然同一なる事を證明したる書簡を獨逸委員に送つた。調印の儀式中フオッシュ元帥は佛國委員の中に坐し、其他出席の知名の士の中には上下兩院委員若干名戰時内閣の首相四名即ちブリアン、リボー、バブレーブ及びヴイウイアニ諸氏並にアルサス・ローレンの佛國最高委員等があつた。獨逸の媾和條約承諾の通牒は頗る簡單にて僅に一頁に過きず、何等の保留をなきず條件を容認せるも、條件の過酷なるに抗議する所あつた。

該通牒の一部に曰く

『聯合國は武力によりて獨逸より媾和條件を、即ち獨逸民より何等の名譽を剝奪せんとの目的を有する條件の容認をすらなさしめんと決せるものの如し獨逸民は其の課せられたる條件を外部の行動によつて防禦するの途なし、優越なる權力に屈し、而かも未だ嘗て聞かざる不正に對する吾人の批判を開陳する事を放棄せずして獨逸政府は吾人に課せられたる條件を承諾し調印することを宣言するものなり。』

平和記念の大觀兵式と市中の祝賀

世界大戰の平和克復記念の大觀兵式は七月一日を以て代々木原頭に於て擧行せられた。此日大正天皇には、午前七時三十分宮城御出門、代々木ヶ原の觀兵式場に臨幸あらせ給ふた。朝霧深き原頭に三萬の軍隊は赳々として集まる、斯て近衛、第一兩師團の諸兵は場の南方に充滿して着御を待ち奉る。斯る間に原首相を始め國務大臣、親任官、陸海軍將星、各外國大公使及武官連續々入場す。八時東宮殿下御着あり、續いて八時二十分、鹵簿の着御を迎ふる喇叭たる喇叭起り、飄飄として天皇旗只一騎玉車の御前行を承はる。軍樂隊の

『君ヶ代』奏樂裡に陛下は玉座に着御あらせられた。軈て此日の諸兵指揮官柴中將の奏請に依り陛下は再び玉車に召されて御閲兵に向はせらる。時正に八時四十分、御閲兵は玉座左方の近衛師團より始まる、玉車に隨ひ奉る元帥大將、外國武官團の最先頭には我が皇太子殿下英姿颯爽として御愛馬「和亭」の鞍上に跨らせ給ふ、東宮殿下の御閲兵は實に此日を以て最初とする。御閲兵了つて九時より分列式が行はれた。斯て式は午前十一時を以て終了し陛下には御機嫌麗しく還御あらせられた。

平和記念日附印

此日全國の寺院にては所謂平和の鐘に擬へ午前六時百八の慶鐘を一齊に鳴した。同日東京市中にては種々なる祝賀の催しが行はれた。東京市の祝賀會は午前中祝賀市會を開會し、正午帝國ホテルに於て祝宴を開いた。又各區役所にても午後四時より各樓上に祝賀會を開き區長以下名譽職參集して祝盃を擧げた。都下の大、中、小學校にても亦祝賀式を行ひ、罐和に關する講話があつた。午後七時から帝國ホテルに於て外人主催、參加隨意の舞踏會が開かれ、同時間に救世軍は炬火行列を爲し青山練兵場に於て同軍の義勇團員百數十名集まり大篝火を焚き煙花を打上げ萬歳三唱後提燈行列を行ふた。

此日また商業會議所、實業聯合會等も祝賀會を開き、夜に入りては實業各團體の提燈行列あり市内の各小學校では、旗行列を行ひ、其他日比谷公園、九段、永代橋上流、吾妻橋下流、湯島公園、青山練兵場、小石川久世山、芝赤羽造兵廠跡の各所に於て各數百發の煙花を打揚げ全市を擧げて平和祝賀の氣分が横溢したのであつた。

京城南大門驛頭の椿事

八月十二日朝鮮總督及び同政務總官更迭して總督には豫備海軍大將齋藤實、政務總監には法學博士水野練太郎任命され、九月二日新總督、新政務總監の一行は赴任し、同日午後五時十分京城南大門驛に到着し、官民多數の出迎裡に、齋藤總督は夫人秘書官と共に馬車に搭じて驛を出でたる刹那豫て群衆中に紛れ居たる二兇漢は突如總督を目蒐けて爆烈彈を投じたが、幸に總督馬車は數間を離れ居りたる爲め無事なりしも附近にありし各新聞社員數名は重傷を負ふた。兇漢の一名は直ちに捕へられたるが五十歳前後の鮮人であつた。尙同日午後六時一名の嫌疑者を南大門驛前にて逮捕し越へて同月十七日日本町署にて嫌疑者として咸鏡南道洪原郡姜燃丸（六十六）を捕へたるが取調の結果、同人は爆彈兇行の眞犯人なること判明して京城監獄に護送され、次で其後數回に亘り取調の結果、同人は總督暗殺の陰謀團を組織し、在京鮮人等と氣脈を通じ、根據を上海に設置し居り又爆彈は浦鹽の過激派の一人より買求めたとの事であつた。斯くて翌年二月に至り裁判決定して主謀者姜宇基（俗稱姜燃丸）は死刑、其他の一味なる崔子南は懲役三年、詳炳は懲役一年六ヶ月、吳秦泳は無罪を夫々言渡されたのであつた。

大正九年

平和宣布の大詔渙發

世界平和の克復に對し一月十三日を以て左の大詔は渙發せられた。

朕惟フニ今次ノ大戰亂ハ兵戈五年ニ彌リ世界ヲ聳動セシメタルモ我カ聯合諸友邦勇奮努力ノ威烈ニ賴リ戰氣一掃平和全ク復スルニ至リタルハ朕ノ甚タ懌フ所ナリ今斯ノ紛擾ノ局ヲ收メ安寧ヲ將來ニ規ルハ固ヨリ諸友邦ノ協同變理ニ須タサルヘカラス殊ニ媾和會議ノ佛國ニ開カルルヤ朕亦全權委員ヲ簡派シ其ノ商議ニ參セシメシニ平和永遠ノ協定新ニ成リ國際聯盟ノ規模斯ニ立ツ是レ朕カ中心實ニ欣幸トスル所ナルト共ニ又今後國家負荷ノ重大ナルヲ感セスンハアラサルナリ

今ヤ世運一展シ時局丕ニ變ス宜シク奮勵自彊隨時順應ノ道ヲ講スヘキノ秋ナリ爾臣民其レ深ク之ニ省シ進ミテハ萬國ノ公是ニ循ヒ世界ノ大經ニ仗リ以テ聯盟平和ノ實ヲ擧ケムコトヲ思ヒ退イテハ重厚堅實ヲ旨トシ浮華驕奢ヲ戒メ國力ヲ培養シテ時世ノ進運ニ伴ハムコトニ勉メサルヘカラス

朕ハ永ク友邦ト偕ニ和平ノ度ニ賴リ休明ノ澤ヲ同クセムコトヲ期シ朕カ忠良ナル臣民ノ一心協力ニ倚籍シ衆庶ノ康福ヲ充足シ文明ノ風化ヲ廣敷シ益々祖宗ノ洪業ヲ光恢セムコトヲ庶幾フ爾臣民其レ克ク朕カ旨ヲ體セヨ

御名御璽

大正九年一月十日

各大臣副署

國技館新築落成

江戸時代以來の帝都の名物たる兩國回向院の大相撲は爽に明治四十五年の二月、新たに常設の國技館が創建され華々しく開館したるが大正六年十一月二十九日夜半端なく出火して全部燒失し且つ回向院も類燒に歸した。之が爲め翌七月の春場所より九段の靖國神社境

内の相撲場に假小屋を設けて擧行し、一方燒跡の兩國に再建築中であつたが漸く工事完く竣成を告げたので、大正九年の春場所から再建新粧せる國技館に於て擧行する事となつた。久し振りの本場所擧行なので好角家は一月五日發表の新番附を待ち兼ねた事とて、初日以來多大の盛況を示した。殊に當春場所の番附は頗る面目を一新し、西方張出しの大關朝潮は引退して年寄となり、東方は栃木山、大錦對島洋、常の花は舊の儘であつたが小結の九州山は前頭三枚に落ち、代つて源氏山が六枚目から一躍小結に昇進した。又西方は鳳、千葉崎は共儘なりしも關脇の藤の川が前頭八枚目に激落し、前頭三枚目の三杉磯が一躍關脇に昇進したのであつた。而して當場所に於ける優勝旗は六場所振りにて西方の勝利獲得に歸した。

尼港慘殺事件

一月六日　日本及び英佛の支援によりて成立したる西比利亞のオムスク政府は、過激派の爲めに遂に倒壞し、コルチヤツク提督は浪落の已むなきに至るや、忽ち過激派は東漸して各地方に擾亂を見るに至つたので、我國は此の形勢に鑑み約五千の增兵を行つたが、一方暴惡なる過激派パルチザンは二月十二日より五月下旬に亘り尼港即ちニコライエフスクに於て我が領事石田虎松を始め守備隊將卒百三十餘名、海軍將卒四十餘名及び居留民三百五十名合計七百餘名老幼男女の別なく悉く虐殺したのであつた。

露領ニコライエフスクは黑龍江口に臨める港で沿海漁業の中心地であるので、邦人は著しく此地に發展し、大正七年には居留民四百を算ふるに至り、殊に每年六月より十月に至る解氷期には此地に集まるもの頗る多かつた。世界大戰に際し過激派の勃興に當りて、此地に在りし多數の獨墺俘虜は悉く過激派に合流して猛然策動を爲せるよりして極東は多大の危險に瀕した。依て我國は米國と共にチエツク救援の下に、眞に第十二師團の一部を浦鹽に派遣し、又沿海を警戒する爲め、第三水雷戰隊を尼港方面に派遣し、次で第三艦隊を同方面に派遣し、帝國及與國臣民の保護に任じた。然るに尼港過激派軍はハバロフスクの過激派軍と策應して反抗的態度に出づる形勢ありし爲め第三艦隊司令長官有馬中將は九月七日陸戰隊を揚陸してチスイラフ砲臺、過激派軍本營及兵營を占領し武裝解除を行つて獨墺捕虜を我國に收容した。斯くて我軍は尼港を占領して黑龍江の死命を制する必要を生じ又此方面に行動中の海軍部隊は結氷前に撤退すべきを以て浦鹽派遣軍司令官はハバロフスクより一部隊を尼港に派遣するに決し十九日歩兵第二十四聯隊第二大隊は黑龍江を下航して同月廿四日尼港に着し陸戰隊と交代して守備に任じたので、我艦隊は十月中旬結氷前に尼港を撤退した。

然るに一時勢威隆盛を極めたりしコルチヤツク政府は八年の晩秋に至りウラル戰線に於て敗れた爲め政府は動搖を來し十一月十五日同政府はオムスクを撤退するの已むなきに至り、之が爲め西比利亞の政情は頓に惡化し、極東露領各地の過激派は又々擡頭し、九年一月上旬には遂にコルチヤツク政府は崩壞し、過激派は大に勢力を得て、尼港方面は人心大に動搖を來した。仍て我守備隊は日露自衛團及露軍と協力して住民の保護に任じた。然るに同月二十四日及二十六日尼港駐在三宅海軍少佐及び石田領事より海軍々令部長及び外務大臣に對して陸戰隊派遣の具申があつたので救援隊派遣の計畫中、過激派は益々尼港に迫り同月二十八日チヌイラフ砲臺を占領し二月五日更に我無線電信所附近を砲擊し、四日守備隊も亦砲擊されて遂に同地を撤退し六日海軍無線電信隊に合したが、敵は更に陣地を進めて砲擊を繼續したる爲め、電信室に砲火集中して炸裂せる彈丸の爲めに電波は妨げられ。此際電文は爲めに斷續し僅に「吾等四十三名の無線電信局守備隊は枕を列べて此地に戰死せるも後日救援隊來り此無線電信局と共に吾等の死骸は我隊に收容さるべし、敵の照準は極めて的確なり」と辛ふじて解きるゝばかり送信中、敵彈は電信機に命中して送電不可能となりし爲め隊員は自ら火を放ちて局舍を燒却し塚本中尉の率ゆる一箇小隊と共に死力を盡して敵の重圍を突破し吹雪を冒して漸く尼港の石川大隊の本隊に合した。此際榊原海軍大尉倉持陸軍々曹、中澤、市野一等卒は死傷したのであつた。然るに我救援隊は二月上旬軍艦三笠及び見島をアレキサンドロフスクに派遣したるが兩艦は流氷の危險を冒し十五日亞港の南方二十哩のアグメオ沖に到達したるが堅氷の爲め是れ以上北進不可能にて已むなく尼港救援隊は一時旭川にて待命する事となつた。

然るに一方、尼港にては二月十二日以後再び戰鬪開始されたるが、過激派軍は反過激派軍及び日本軍の猛烈なる抵抗の爲め容易に尼港に入京し得ざるより、日本軍に戰鬪中止の提議を爲し、二十三日ハバロフスク駐在の山田旅團長は陸軍當局の指令に基き過激派軍司令官と會見して戰鬪中止を約し、兩軍司令官連名を以て兩軍に電報した。玆に於て尼港に於ける石川大隊は過激派軍の尼港入市を承諾したる爲め同軍は續々入市し二十八日日露兩軍將校の懇話會は同市の公園に開催された。然るに何ぞ圖らん是れ過激派軍の惡辣なる欺瞞策であつた。果然過激派軍の尼港に入市するや、市内に於る舊露西亞帝國に屬する知識階級及び資產階級を根本的に潰滅するを目的とし、非常なる蠻行を所在に演じ、資產の掠奪老幼男女を焚殺し、有らゆる慘虐を行ひ、三月五日迄に慘殺されたるもの實に二千四百人に達した。而して野獸の如き過激派軍は過般の協約を一片の反古と爲し三月十一日參謀長の名を以て我軍に武裝解除を要求し來つたので、石川大隊長は大に憤り、陸海軍協議の上、領事館は海軍無線電信其守備に當り邦人の保護は陸軍是に當る事とし、機先を制して三月十二日昧爽、石川少佐は卒六十名と義勇團員五十名を引率して前進し、過激派司令部なるヌーベリ商會を襲擊して司令官トリビーチン及び女參謀長ニーナを殺さんとして遺憾長蛇を逸し、商會を燒却してチヌイラフ砲臺占領に向ひ激戰したるが我が戰況不利の爲め島田商會に後退して應戰したるも同商會は敵彈の爲め燒失せるを以て遂に領事館に引揚げた。然るに我領事館に避難中の同胞は途上老

幼男女悉く慘殺され、辛ふじて毒手を逃れて領事館へ辿り着きたるものは軍隊と合せて僅に二百四十五人であつた。

斯て我同胞の領事館に籠城するや、過激派軍は殘留せる諸財産を掠奪し、家屋に放火し、進んで領事館を砲撃した。玆に於て避難せる我同胞一同は今は是迄なりと死を決し男子は悉く武器を採り、女、小兒は彈藥を運び、食糧を作り、又は負傷者を看護し、十二日午後より翌十三日迄官民共に悪戰苦闘を續け、十三日の午後には生存者は僅に二十八名、一人として負傷せざる者なく、彈丸と共に精力も盡き果て、木造建築の領事館は敵彈の爲めに火を發して燒け落ちたるが、同胞男女は共に潔く萬歳を高唱して猛火の裡に投じ壯烈なる最期を遂げた。此際石川領事は十三日の夜半運命既に窮まると見るや自ら大禮裝を爲し、夫人末子に命じて紋服に着換へさせた上、重要書類を燒却し令息貞雄、令孃あや子と共に菊花御紋章入りの銀盃に最後の別杯を酌み交し、ピストルを以て先づ令息を斃し次で合掌せる夫人及令孃を斃して後自殺を遂げた。又海軍少佐三宅駿五は敵襲と共に敵軍中に突入して戰死したのであつた。

是より先、石川大隊の一部は領事館救援に赴いた一隊と別れて大隊本部に引上げたが、敵の攻撃目標は我が守備隊本部に移り攻撃益々猛烈となり三月十二日午後七時半最後の運命窮迫したので、喇叭卒軍曹鈴木清美以下兵卒十四名は御眞影及重要書類を燒棄して中隊兵舎に會し健氣にも孤立無援の地に防戰六日間に及んだ。然るに十七日に至り敵軍に捕虜となれる河本通譯を速行してハバロフスクの日本軍司令官よりの休戰命令を示し明十八日午前九時迄に回答すべき事を傳へた。玆に於て生殘つた我士卒は戰鬪を中止し此狀況を詳細報告の上潔く死する事に衆議一決し先づ病院より武裝を解除し、武器彈藥を全部赤衞軍に引渡した。是れ實に三月十八日午前十時であつた。斯て丸腰となれる軍隊の一部と生殘せる同胞百四十名は欺かれて黑龍江の獄舍に投ぜられた。一方義に石田領事の無電によつて尼港在留民の生命財産危急に瀕せるを知つた我外務省及陸海當局は敍上の如く軍艦三笠、見島の二艦を北進せしめしも流氷の爲め前進を阻止され、飛行機にて亞港を偵察の上、三笠より陸戰隊を上陸せしめ捕虜となれる同胞四十名を救出したるも、尼港は五月解氷の期に至らざれば救援不可能なる事を判明した。然るに三月下旬に至り情勢又々急を告げたので四月十九日尼港救援軍は再び乘船を命ぜられて多門大佐之を率ゐる三笠、見島援護の下に亞港に至つて之を占領し、二十三日尼港司令官トリピーチンに同胞の情況を問合せ、五月十三日多門支隊は亞港を出發して十四日デカストリーに上陸し、之より北方百哩の尼港に向て急行しキヂ湖を渡り、一路マリンスクを衝かんとし、一方は五月一日新に尼港救援軍司令官に任ぜられた津野陸軍少將の命により歩兵二聯隊第三大隊中の殘部二中隊は五月二十八日迄にソフインスクに於て多門支隊と合すべく急行したが、尼港入市中の過激派軍は到底敵すべからざるを知つて牢獄に收容中の日本人處分を議し五月二十四日の夜半悉く之を慘殺し火を放つて逃れた。斯くとも知らず多門支隊は二十五日マリンスクに進出し、國分枝隊及び中村少將の臨時海軍派遣隊と合して黑龍江を下り三十一日オスークレセンスコエに入り六月三日午前五時ツノールの敵を擊退して尼港に入りチヌイラフ要塞を占領したが、時既に遲くして救援すべき同胞は敵の毒手に斃れたる後にて、一人の生存者なく、尼港全市は焦土と化し餘炎尚止まざる慘狀であつた。

尼港慘虐の報一とたび日本内地に傳はるや、朝野を擧げて驚然として哀悼し六月三日和田砲兵大尉が石田領事の遺骨を携へて上野驛に歸着するや翌二十四日貴衆兩院聯合追悼は議院内の前庭に開かれた。又、同日水戸常盤公園に於ても追悼會は催された。後九段坂上に殉難碑を建設して同胞の靈を弔ふたのであつた。

李王世子垠殿下御婚儀

朝鮮李王家世子垠殿下には大正九年四月二十八日を以て梨本宮方子女王殿下と芽出度結婚の御儀式を擧げさせ給ふた。垠殿下は故李太王の第三王子にましく〳〵明治三十年十月二十日の御誕生、御歳十一歳の時、伊藤博文公の薦めに依つて東京へ御留學、末松子爵御養育掛の下に御勉學あり、明治四十一年一月學習院御入學同院御卒業の後、陸軍士官學校に御入學、同校御卒業後、六年十月陸軍少尉に御任官、御結婚後間もなく中尉に御陞進大勳位菊花大綬章を賜はつた。其後陸軍大學に御入學御卒業後、參謀本部附とならせられた。現に陸軍歩兵中佐であらせらる。妃方子女王殿下は梨本元帥宮守正王殿下の第一王女にましく〳〵明治三十四年の御誕生であらせらる。

羅馬尼皇太子御來朝

羅馬尼皇太子カロル殿下には大正九年六月二十日大阪に御上陸あらせられ、二十三日を以て御入京あらせられた。當日我が東宮殿下には畏くも東京驛に御出迎へありて、御同車にて霞ヶ關離宮まで御案内あそばされた。カロル殿下には七月四日まで御滯京あらせられ而して同日關西へ向はせられ、京阪奈良地方を御漫遊の後、同月二十七日横濱から御出發御歸國の途に就かせられたが、殿下御來遊の目的は親光と共に同國工業開發の資金一億五千萬圓の投資を朝野に求められたのであつたが擔保品等の問題で纏まらなかつたものである。

新たに國勢院設置さる

内閣總理大臣の管理所屬の下に、新たに國勢院なるものが大正九年五月十五日勅令第百三十九號を以て其の官制が公布されて設置されることとなつた。而して同院は左の事務を掌るのである。

一、行政各部統計の統一に關する事務
二、人口統計其他の國勢の基本に關する統計にして行政各部に專屬せざるものに屬する事務
三、統計に關する報告の刊行及內外統計表の交換に關する事務
四、統計職員の養成並各官廳の統計主體者の招集及會議に關する事務
五、軍需工業動員法施行に關する事項の統轄の事務
六、前號の統轄の爲めに必要なる事務の執行の事務
七、軍需工業復員に關する調査事務

同院の職員は總裁（親任）部長二人（勅任）其他に秘書官、書記官、事務官、統計官、技師、統計官補、屬、技手等、又別に院務に參與せしむる爲め勅任待遇の參與官を置いた。而して國務院が新置された結果として軍需局並びに內閣統計局は廢さるゝに至つた。尙同院新設第一次の國務院總裁には小川平吉が就任し、第一部長は牛塚虎太郎、第二部長阿部壽準であつた。

社會局の新設

九年八月二十三日勅令第二百八十五號を以て內務省に社會局が新設せられた。此の社會局の管掌事務は左の諸事項である。

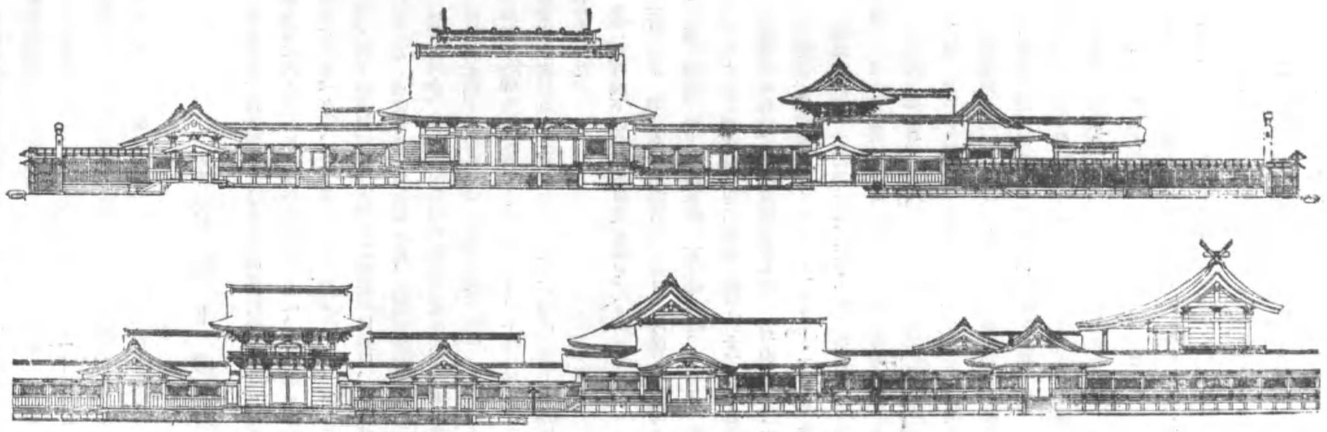
『賑恤及び救濟に關する事項、軍事救護に關する事項、失業の救濟及防止に關する事項、兒童保護に關する事項、其他社會事業に關する事項。』

而して救貧、罹災救助、行路病人保護、職業紹介事業、住宅供給及其改良、公設浴場、公設質屋、無料又は低廉宿泊所の奬勵、部落改善、青年團體の指導、處女會の奬勵、民力涵養事業、兒童保護事業即ち幼兒、貧兒、棄兒、里子、貰子、迷子、不良少年少女、小學校令に依り就學を免除されたる精神身體の故障兒等の保護等を取扱ふのである。

明治神宮御鎭座祭

明治大帝の神靈を齋き祀る明治神宮の御造營計劃は、曩に決定し、大正四年十月に地鎭祭を、翌五年三月に新始祭を行ひ爾來御造營工事は着々として進捗し、八年四月に下拵へを運び、同五月に立柱祭を擧行し、同七月本殿の上棟祭を行ひ、斯くて大正九年十月全部完成を告げたので、翌十一月一日を以て崇嚴なる御鎭座祭を擧行された。今其御次第を記さんに、當日午前十時勅使として九條掌典長參進され、次で伏見宮明治神宮造營局總裁殿下を始め奉り、床次同副總裁並に御造營關係諸員、其他文武の顯官、貴衆兩院議員、貴婦人等約二千五百名禮容を整へて參列し、宮中伶人の奏樂中、內陣に奉安せられたる御唐櫃は開かれ、一條宮司御靈代を奉じて恭々しく御帳臺に安置するの大儀を行はせらる。夫より勅使御祭文を奉讀し、終つて宮司之を拜受して神前に捧ぐ、次で海の物山の物十一種の神饌を供へ奉り、一條宮司は鞠躬として祝詞を白し御幣物を捧ぐると共に、九條勅使は更に祭文を拜讀せらる、次で伏見總裁宮殿下玉串を捧げて最初の拜禮を遊ばされて後、原首相一條宮司及び參列員總代東鄕大勳位の諸氏順次拜禮あり、了つて撤饌、午前十一時御鎭座祭の盛典は終りを告げた。因に、神宮御造營御規模の概要一班を記し奉らんに、御鎭座地の總面積は二十一萬八千八百九十三坪、內十九萬九千二百六十七坪世傳御料地、三千五百三坪普通御料地、一萬六千百二十三坪官有地第一種、元代々木陸軍練兵場の一部である棟數は十八棟御垣三重、鳥居四基、建坪總數六百五十六坪、玉籬內御敷地凡六千五百九十三坪一合五勺三才、玉籬の東西は廣狹により て六十三間より五十間に涉り、南北は百二十間四方に鳥居あり、廻廊は東西三十三間、南北八十間、四方に神門あり、其南のものは八脚樓門である。廻廊の中心に拜殿あり、其左右は複廊となり、之によつて廻廊內を前後の二廊に分つて居る。內院及外院が即ちこれである。最內廊である內玉籬即ち透塀の一扉は、此內院にあつて凡そ二十間四方、本殿、祝詞舍、神庫の三宇を圍み、南に中門、北に玉籬門がある。神饌所は內院の東廻廊に沿ふて建てられ、同殿の東所方外玉籬寄りに神饌井及び祭器庫が並置されて居る。其他便殿、東西御車寄、直會殿、組立舞殿、祓舍、表手水舍、宿衛舍等がそれ〴〵の位置た在る。本殿屋上の千木堅魚木に七ヶ所と其他の御建物に對して丈高き松の木四本に避雷の設備がある。西玉籬鳥居外の北方に水槽と定置式がソリンポンプ二機を地下に裝置し、玉籬後半部に鐵管を埋設して四ヶ所に消火栓がある。社殿御建物の床は本殿、神殿、神饌所、祭器庫及び便殿を除く外は、皆石敷にして岡山縣此木島及び茨城縣稻田產の石材を用ひて、總材積三萬五千立方尺、御造營用木材は臺灣阿里山の扁柏及び木曾御料林の檜の二種で、總容木造、兩者合せて總數尺〆貳萬本、大鳥居の如きは實に阿里山の扁柏一本にて出來て居る。神殿の御屋根は玉籬の銅葺を塗く外は、總て檜皮葺で大部分は高野山より、一部分は丹波より採用し、總量十二萬貫であつたと云ふ。

而して神宮內苑の總工費は實に五百五十八萬二千四百二十一圓十錢に上り、內社殿其他の建築費百六十萬圓、土木工事に六十二萬圓林苑費六十六萬五千圓、假設物費十五萬圓、神宮裝飾及び祭典費十八萬八千圓、境外道路補助費三十萬圓、土地買收費十二萬八



明治神宮全景　（上）社殿正面圖　（下）社殿側面圖

千圓を要したのであつた。

尙土工に就ては大正四年以來、毎日三四百人の工人を使用し、或は在鄕軍人、青年團の勞役奉仕等ありて完成したものである。青年團の奉仕は初め大正八年十月先づ靜岡縣安倍郡有度村の青年團五十名を選拔して十日間奉仕せしめたるに、其後各地より申出であり、後には一團體六十人、十日間に限られたるも、日本全國より集り、總數七千人以上に達した。此外各地より奉獻せる植樹は百五十一種、十萬本に上り、在來のものと合すれば實に十二萬九千九百三十二本であつた。

國際聯盟第一回總會

國際聯盟總會は豫定の通り一九二〇年即ち大正九年十一月十五日より、瑞西ゼネバ市のリフオーメーションホールに於て開會され、四十一個國の獨立國及び英國領土の代表者が之れに參加した。獨、墺洪、露、并びに米國は是れに加はらなかつた。開會當日は常任議長として白耳義首席代表イーマンス氏が選擧された。而して總會は左の六個の委員會を設定し、各委員長の下に問題の細目を議せしむることゝなつた。

第一部　一般組織。委員長バルフオア（英）副委員長顧維鈞（支）

第二部　衛生交通に關する專門機關并に常任財政機關。委員長チツトニー（伊）副委員長タケ・ヨネスコ（羅）

第三部　法律問題并に國際裁判所設置。委員長レオン・ブルジヨア（佛）副委員長コスタ（葡）

第四部　國際聯盟財務。委員長キノネス・ドレチン（西）副委員長スツクボ（コロンビア）

第五部　聯盟新加入國事務。委員長ユーネーヴス（智）副委員長ブランコ（ウルグワイ）

第六部　軍備并に委任統治。委員長ブランチング（瑞典）副委員長アゲウロ（玖馬）

總會開會第二日に於て副議長は十二名を置くべしとの英國案が採用せられ、其の內三名は歐洲以外から出すべしとの日本案が承認せられた。而して十八日には左の六名が副議長に選擧された。

石井子爵（日本）、カルネベツク（和蘭）、ブエールレドン（亞爾然丁）ベーネス（チエツク・スロヴアキア）、サー・ジョージ・フオスター（加奈陀）、オクダヴイナ（伯剌西爾）、

一方聯盟會に加入を承認せられぬ獨逸は、聯盟會の存在に對して屢々其の決議の無效を唱へられて居たが、十九日に至り同國は最早海外植民地拋棄に關する條項履行の義務なきことを聯盟に向つて通告した。右に付き英國代表バーンス氏は自身は成るべく速に舊敵國を加盟せしむるに贊成意見を抱懷せる英國勞働階級の爲め、獨逸加入を許せんことを望むものにして全世界の勞働社會又その意見を同ふするものなるべしと演說し、多大の注意を惹起した。

又日本委員は十一月三十日總會に於て演說し、人種平等案に就て述べる所あり、日本は今次の總會に於て提案することを差控ふべきも、好機會の到來せる場合は、時を外づさず再び提出する意志を有する旨言明し、列國の委員を一驚せしめたといふ。

閔元植暗殺事件

朝鮮中樞院副參事、國民協會々長、朝鮮時事新報社長たる閔元植は、朝鮮人參政權獲得運動の團長として同志全昌壽、鄭炳朝、丁秀泰、久野重吉氏等其他數名と共に上京し、東京ステーションホテルに投宿し專ら衆議院議員中、各方面の有力者間に運動を爲し大正十年二月十五日牧山代議士の紹介にて叙上の請願書を提出した。然るに翌十六日の朝七時半電話にて日本大學生李基寧と稱して面會を申込み來り次で九時半頃、件の怪鮮人は來り、閔氏と會談の際、激論を始めた結果怪鮮人は短刀を以て閔氏を刺殺し其儘ホテルを逃走したるが、一方不慮の兇刄に斃れたる閔氏側では夫々手續を終り十七日午後一時より東京驛構内待合室の一隅に於て告別式を行ふた。而して其筋にては右の兇漢に就て搜索の結果、兇漢は横濱を發して神戸を經北滿に高飛びせんとする途中二十三日午前九時長崎に寄港した郵船高砂丸から上陸したる所を捕り押へられた。該兇漢は朝鮮黃海道延白銀川面字東梁村の生れで當時牛込區早稻田鶴卷町に居住せる梁槿煥(二八)と云ふ者なるが、警視廳に護送され取調に對して、彼の自白する所によると、閔元植を殺害せるは自分一個の考にて何人にも使嗾されず、閔の參政權獲得運動は甚だしく獨立運動を阻害すると認めたからであるといふ。而して其後裁判の結果無期懲役を言渡され、直ちに控訴し同院にても同樣言渡され上告したるも思ふ所ありて上告を取下げ原裁判に服罪した。一方閔元植は二月十七日長きあたりより御沙汰ありて特旨を以て正五位勳四等に敍せられ瑞寶章を賜ふた。

東宮殿下の御外遊

皇太子裕仁親王殿下には世界大戰後に於ける歐洲の事象御見學の御思召を以て御渡歐遊ばさるゝ事に決定し、大正十年三月三日、軍艦香取に召させられ、供奉艦鹿島を隨へ、横濱港を御出發あらせられた。之より先、閑院宮載仁親王殿下には東宮殿下御外遊中御隨伴あらせらるべき旨、畏き邊りよりの御沙汰あり、而して供奉員隨行員は夫々左の如く任命せられた。

東宮殿下供奉員、宮內省御用掛伯爵珍田捨巳、東宮武官長陸軍中將奈良武次、宮內省御用掛醫學博士三浦謹之助、東宮侍從長子爵入江爲守、東宮侍從子爵土屋正直、式部官西園寺八郎、東宮職御用掛海軍大佐山本信次郎、東宮主事戸田氏秀、東宮侍從伯爵龜井玆常侍醫高田壽、外務書記官澤田節蔵、東宮武官海軍中佐及川古志郎、同陸軍歩兵少佐濱田豐城、宮內書記官伯爵二荒芳德。

載仁親王殿下隨行員。宮內事務官松井修德、皇族附武官騎兵中佐細田義彌、艦隊司令官海軍中將小栗孝三郎。

還回殿下の御外遊に就ては國民中には、不逞の徒横行の折柄、萬一殿下御身邊の危險を危惧し、御外遊御取止めの儀を懇願し上奏文を捧呈する者があるに至つたが、夫れが爲めに御中止御延期などの御沙汰はなく御豫定の如く、三月三日の吉辰を以て横濱港を御發航あらせられた。

左に東宮殿下の御外遊日程を掲ぐ。

三月三日　御召艦横濱港發程、六日。沖繩に寄港御上陸首里城行啓、八日。御召艦日本領海を離る、十日、香港入港太守スタップ香取に伺候、殿下英國軍艦に太守御答禮、十一日。英艦に御搭乘ストーン・カッター島砲臺御見學、同地各英字新聞殿下のデモクラチックなる御態度に對し頌辭を揭ぐ、十二日。香港御發航、十八日。新嘉坡入港、總督サー・ローレンス・ギルマルド伺候、十九日總督邸晩餐會に閑院宮殿下御名代として列席、二十日、御微行御上陸、博物館御見物、二十二日。新嘉坡御發航、二十八日。古倫母御着、錫蘭總督ウイリアム・ヘンリー・マニング來訪、同氏案內にて御上陸總督邸行啓、二十九日。カンディー總督官邸へ行啓、佛齒寺御覽、官邸御一泊、三十一日。植物園へ行啓、御歸艦。

四月一日　古倫母御出發、十五日。蘇士御着、御上陸御見物、十六日。御發航、運河御通過、十七日。坡土西(ポートサイド)御着、英國官民在留邦人代表者御接見、十八日。御上陸埃及御見物、埃及王晩餐會御臨場、十九日。埃及王公式御訪問、二十一日。坡土西御出發、二十四日。マルタ島御着、英國第四皇子ジョージ親王及びマルタ總督、地中艦隊司令長官の訪問を受けらる、御上陸總督府及地中海艦隊旗艦御答訪、ローヤル劇場にて沙翁のオセロ劇御見物、夜公式晩餐會に御臨場、二十五日。日本海軍戰歿者追悼式御臨場、總督官廳及寺院へ御成り、二十六日。マルタ御出航、三十日。ジブラルタル島御着、御上陸少年園競馬御覽、政府晩餐會御臨席、

五月一日。御上陸、海軍工廠、英海軍提督官邸午餐會、貯水池、舊砲臺等御成り、二日。西班牙皇室及政府代表者アルジェシラス知事來訪、代表軍隊分列式、民政長官主催午餐會、總督園遊會御臨場、夜總督以下英國官憲及米國艦隊司令長官御招宴、三日。ポーツマスへ向け御出港、七日。正午英國スピットヘッド御安着、八日。大西洋艦隊司令長官マッデン提督の午餐會に臨臨、九日。ポーツマス軍港御上陸、英皇太子、アーサー・オブ・コンノート兩殿下を始め英國官民の歡迎を受けられ、直ちに特別列車にて倫敦に御着、ヴキクトリア停車場にて英帝ジョージ五世陛下と御握手、馬車に御同乘バッキンガム宮殿に入らる、宮殿晩餐會御臨席、十日。ウキンゾル宮殿御訪問、バス勳章御受領、ヴキクトリア女王及エドワード七世兩陛下御陵御參拜、外相カーゾン伯主催晩餐會十一日。倫敦市御訪問、市長の歡迎會、午餐會、聖ジエームス宮殿の英國皇太子主催公式晩餐會御臨席（以上三日間英國帝室の賓客）、十二日。此日より英國政府の賓客となられ、メイフエーヤーのチエスターフキールドハウスに移らる、上院下院御見學、首

大英博物館行啓

相ロイド・ジョージ氏主催ランカスターハウス晩餐會は炭坑爭議の爲め思召により中止、十三日。英蘭銀行、倫敦塔、日本大使館に於ける東宮殿下御主催公式晩餐會、十四日。牛津大學行啓、夜ダリマ劇場に臨臨、花形女優ジョース・コリンズ孃に花蔵下賜、十五日。クランフォード少年義勇兵御閲兵、十六日。陸軍航空隊本部、グリニッチ天文臺、海軍兵學校等行啓、十七日。オルダーショット兵營、サンドハース陸軍大學校行啓、十八日。劍橋大學、同大學より名譽博士の學位を御受領、エヂンバラへ向け御出發、十九日。エヂンバラ御到着、ホーリールード宮に於て英國皇帝の賓客とならせらる、カセドラル、エヂンバラ堂御巡覽、同市長主催公式晩餐會御臨幸、二十日。ロジース晩餐會、エヂンバラ大學にて名譽法學博士の學位御受領、二十一日。少年義勇兵御閲兵、エヂンバラよりハイランドに向はれパースシヤーのブレーア・アソールに於てアソール公の賓客となられ釣魚の御遊、二十二日。近郊御巡覽、二十三日。釣魚御遊、二十四日。エヂンバラよりマンチエスターに向はれ二日間同市長の賓客とならせらる、二十五日。ヴイツカース電氣工場行啓、職工食堂にて一志の晝食を召さる、マンチエスター市長午餐會、グロスレーモーター會社臺覽、二十六日。倫敦御歸還、日本協會主催晩餐會主賓として御臨席、二十七日。イートン學院歡迎會御臨席、バツキンガム宮殿、アレキサンドル皇太后陛下御訪問、日本居留民主催園遊會臺臨、二十八日。チエルシー遊園地、オリンピヤ行啓、倫敦市に一萬磅御下賜、二十九日。タイムス紙に告別の御挨拶御寄書、ヴヰクトリア停車場にて英國皇帝陛下、同皇太子殿下と御訣別、ポーツマスにて香取に御乘艦、三十日。香取、鹿島ポーツマス出發、英國御退去、佛國アーブル御着、三十一日。アーブル御上陸、巴里御入京、佛國内相、海相、大統領代理、首相代理の御出迎を受けらる、御旅館は日本大使館大使官邸、石井大使主催晩餐會御臨席。

六月一日。エルゼー宮殿に大統領ミルラン氏御訪問、ミルラン氏答訪、二日。エッフエル塔御覽、無名兵士の墓所花環下賜、フオッシュ元帥主催慈善舞踊會御臨席、三日。ルーヴル博物館、奈翁墳墓、市歡迎會、海軍大臣邸晩餐會、オペラ等行啓、四日。ペタン元帥の御案内にて巴里郊外フオンテンブロー砲兵學校、奈翁百年祭臺臨、五日。マルメーゾン、サンジエルマン、古器類博物館、サンクルー公園等御巡覽、六日。シエンリーの日佛協會々長主催午餐會、コンピエーニュ宮殿御覽、七日。東久邇宮殿下午餐會、石井大使主催晩餐會、八日。サンジエルマン御巡覽、オペラ御見物、十日。白耳義ブラツセル市へ御成り、アルベルト陛下、皇子レオポルド殿下御出迎皇帝主催晩餐會臺臨、十一日。ザヴヰアー縣皇室御陵、皇帝皇后兩陛下主催離宮午餐會、皇帝御同列にてサンカントネル公園、コンゴー博物館、夜は皇太子御同列にて首相の晩餐會、市長主催レセプション臺臨、十二日。裁判所、ウオタルロー古戰場、午後皇后陛下御案内にてカントラネル公園馬匹共進會、夜日本大使館主催晩餐會、同夜を以て宮中を御辭去、ホテル・アストリアに移らる、十三日。オスタンド、ニューポール、イープル等の戰跡御巡覽、十四日。アーブル市歡迎會、日白協會レセプション臺臨、白帝に御訣別、安達大使主催晩餐會御臨席、十五日。ブラツセル市御退去、和蘭アムステルダム市に御入京、女王殿下晩餐會御臨場、十六日。和蘭皇婿殿下の御案内にて金剛石會社仕上工場、博物館、市中御參觀、市役所レセプション臺臨、海牙へ御成り、皇太后陛下晩餐會、外務大臣主催宴會御臨席、十七日。平和宮殿御見物後ロツテルダム御見物、夜女王陛下の告別宴、十八日。海牙王宮御退去、ホテル・デザンドに入らるアムステルダム動物園、田村公使主催晩餐會等御成り、十九日。フォン、オンメレン家御訪問、二十日。海牙御出發非公式にて白國アルヌ御立寄、ルーヴアン大學獨軍燒打の遺跡、リエージュ戰跡御見物巴里還啓、二十一日パンテオン及びノートルダム、下院上院御訪問、二十三日。セーブル陶器會社御覽後ペタン元帥の御案内にてストラスブルヒ戰跡御巡視、同市主催晝餐會、ライン河御舟遊、メツツへ向け御出發、二十四日。メツツ御訪問二十五日。ヴエルダン御訪問巴里御歸還、二十六日。巴里貧民救濟慈善市ロンシヤン競馬場等へ御成り、二十七日。西班牙大使館にて西班牙皇帝陛下と御會見、ゴーモン活動寫眞會社御見學、二十八日。サンクール萬國度

ライン河の御舟遊

畫術事務所ソルボンヌ大學レセプシヨン戰死者記念碑、大學創始者墳墓等御見物、二十九日。アルベールへ成らせられボアゼン、マリクール其他の戰跡御見物、三十日。佛陸相主催午餐會、工藝學校御參觀。

七月一日。サン、シール陸軍士官學校、ブールジエー飛行場行啓、二日。ラ、ブリーのゴルフリンクへ成られ、御運動、御遊宙にてソルボンヌ大學法科教授ダルノードの佛國政治組織進講御聽取、三日。デスピレー元帥案内役にてガラン及府内、ポンペーニュ、ベリーオーパク等の戰跡並に三鞭酒製造所ポメリー會社等御巡覽、四日。ソンム騎兵學校行啓、五日。ラ、ブリーにてゴルフリンク御成り、ブラス、シヤトー下水工事御覽、日本大使館にて陸軍大臣以下御招宴、六日。大統領邸告別御訪問、大使館員へ賜餐、七日。巴里御退去、ツーロン御着、香取に御乘艦、八日。御上陸、ポーヴアロン、コテー、ダゾールの一部御遊覽、ツーロン鎭守府司令長官等を艦隊晩餐會に御招待、九日。御召艦香取以下ツーロン御發程、伊太利へ向はる、十一日。ナポリ御到着、伊帝名代ピスカレナ提督御出迎、伊國驅逐艦にてカプリ御遊覽、十二日。羅馬に御入京、伊國皇帝停車場に御出迎、キルナーレ宮殿に御着、パンテオン先帝御陵御參拜市中御巡覽、十三日。伊帝御同列にてボルゲセ公園に於ける陸軍演習御覽、午後博物館、新美術館、古美術館御巡覽、夜大使館晩餐會、落合大使主催レセプシヨン御臨席、十四日。羅馬古跡御巡覽、市役所にて市長主催レセプシヨンに御臨席、同夜王宮にて伊帝御主催御訣別宴に臺臨、十五日。午前セントパオロ教會、ゲオウアニーラチラ教會御覽、午後羅馬法王御訪問、法王廳在勤外交團招待會臺臨、セントペトル聖堂御覽、十六日。法王廳、博物館、落合大使主催午餐會、法王廳内モザイク製造所等御成り、十七日。羅馬停車場に伊帝と御訣別、ナポリにて御乘艦、十八日。ポンペイ御覽、ナポリ御發航、御歸朝の途に就かる、二十二日。坡土西御入港、二十三日。坡土西御出港、二十四日。蘇士御入港、二十六日。蘇士御出港、三十日亞丁御入港、三十一日。亞丁御上陸。

八月一日。亞丁御出港、九日。古倫母御入港、十一日。古倫母御出港、十八日。午前新嘉坡沖御假泊午後御出發、二十一日。カムラン灣御入港、二十四日。カムラン灣御上陸附近御遊覽、二十五日。カムラン灣御出港、二十八日。臺灣海峽御通過。

九月二日。館山灣に御到着、三日。横濱御入港。

小說家協會と無名作家同盟

小說家として屈指さるゝ菊池、久米、芥川、里見、德田、廣津、豐島、小川、加藤、加能、吉田、谷崎、宇野、江口、相馬、田中、室生等の十七作家が發起となり大正十年七月、小說家の相互扶助共濟を目的とする小說家協會なるものが創立された。其の規定に依ると同會は小說創作を職業とする者にして左記の資格を有するものを會員とするのである。

一、著名なる文藝雜誌乃至新聞に五篇以上の小說を發表したる事あるもの

一、小說の單行本を二冊以上發行したることあるもの（自費出版を除く）

又是れと殆んど時を同じうして無名作家同盟なるものが現はれた。此の同盟は、所謂有名作家の惰氣滿々たる空氣を打破すべく、未だ文壇に名を爲さざる無名作家が同盟して眞の藝術的良心に基きたる作品を發表し、文壇の迷夢を醒まさうといふ運動であつて、其の主唱者の顏觸は原田謙次、山崎斌、星野潤一、田中宇一郎、濱田廣介等の人々で、大體の運動方法としては左の如くである。

一、無名作家の爲めにも雜誌は相當の尊敬を以て其の眞を割愛するやう勸告する事

二、有名作家連に文壇的道德を尊重するやう警告する事

三、時流を一掃して新進活躍、後進指導の爲め公正に努力させる事

四、文壇を廣く一般に公開し一部有名作家の獨占に歸せしめぬ事

五、作品の商品化を救ふ事

日英兩國の共同通告

日英同盟協約は大正十年七月十三日を以て其の效力を失するに付き、將來協約の存續若しくは改訂の場合、國際聯盟規約と抵觸せぬやう努むべく大正九年七月八日日英兩國政府より國際聯盟に對して通告する所あつたが、大正十年七月十二日外務省より左の如く公表した。

日英共同通告　大正十年七月十二日　外務省公表

日英兩國政府は日英協約に關する客年七月八日國際聯盟に對する共同通告に關聯し更に本月七日附左の共同通告を同日國際聯盟に送致せり。

日本國及び大不列顚國政府は千九百二十年七月八日附共同通告を以て千九百十一年七月十三日の日英協約が千九百二十一年七月以後に繼續せらるゝ場合に於ては聯盟規約と矛盾せざる形式に於てせられざるべからずとの主義を兩國政府に於て承認せる旨國際聯盟に通告したるに因り兩國政府は今後更に何等かの措置を執るに至る迄本協約の效力存續中若し本協約條項に規定せられたる手續と國際聯盟規約に規定せられたる手續と相抵觸する事態發生したるときは聯盟規約所定の手續を採用すべく協約所定の手續に據らざることに合意成立したる旨茲に聯盟に通告す。

◎第二十一輯豫告◎

口　繪

◎『關東大震災宮城外苑の雜鬧』
（日本赤十字社藏）……五姓田芳柳畫伯筆

◎『米國の排日ポスター』（某氏藏）

玻璃版

○原總理大臣の遭難……
○ワシントン會議……
○皇太子殿下の攝政御就任……
○大隈侯の薨去と國民葬……
○山縣公の國葬……
○皇后陛下の御祈願……
○平和博覽會の開會……
○英國皇太子殿下の御來朝（一）……
○英國皇太子殿下の御來朝（二）……
○カロル殿下及びジョッフル元帥の來朝……
○普通選擧權獲得運動の勃興……
○攝政宮臺灣御巡遊……
○關東大震災（一）……
○關東大震災（二）……
○關東大震災（三）……
○空中より見たる大震災……
○震災直後に發行せられたる謄寫版刷の官報號外……
○大震直後の甘粕事件……
○水平運動の勃興と鬪爭……
○攝政宮御成婚……
○憲政擁護運動・護憲三派……
○國辱的排日法案の米議會通過……
○萬國オリンピック大會に遠征……
○第一回明治神宮大競技會……
○大正年間の女性（一）……
○大正年間の女性（二）……

記　事

大正十年九月東宮殿下の御歸朝より大本教の不敬事件、鐵道開通五十年祝賀祭、東宮殿下攝政御就任、ワシントン會議を始め、大正十一年の平和博覽會、漢字制限及び常用漢字千九百六十一字の決定事情、水平社創立大會、英皇太子の御來朝、東宮殿下の御納采の御儀、普選問題、及び十二年の關東大震災に至る一切を詳叙す。

◎本第二十輯は大正中期のものを集めてある。世界大戰の結果急速に進歩發達した航空術は到底他國の研究追隨を許さぬ程であつたので、我陸軍も海軍も大戰中より研究員を派遣して居つたが、大正八年一月佛國のフォーク大佐以下の飛行團は陸軍に、英國海軍のセルビン大佐以下の飛行團は海軍に招聘されて夫々優秀なる航空術を傳授しパラシュートジャンピングも此時始めて海軍に傳へられたのであつた。

◎同時に傳書鳩飼養法も傳へられた。世界大戰中、傳書鳩は通信任務に服して多大なる功績を擧げて居るので日本でも優秀なる鳩を佛國より寄贈されたので是の訓練法を習得し又一般愛鳩家にも頒與して飼養し今日の隆盛を來たしたのであつた。

◎東宮殿下の御外遊は建國以來の盛擧であつたが爲に賛否交々論議され、供奉員西園寺八郎氏の如きは出發前暴漢に見舞はれた樣な騷ぎであつたが、東宮殿下御外遊の事は實に此則を除いては是を他日に望む機がない、のみならず大戰の狀況が戰爭當時其儘に殘つて居る此時御外遊御見學になる事は誠に絶好の機會であつたので、遂に御豫定通り御出發になつたが、約半歲の後御歸朝の御面薄を拜して、感激の涙に咽び乍ら帽子を振り、手巾を振つて萬歲を叫んだのも眞に押へ切れぬ喜びの發露であつて、叫びたい心持を胸に祕めて無言に靜肅に佇立して居るのに堪へられなかつたのであつた。そして此日から『我等の皇太子殿下』が非常に親しい又國民の極く近くに居らるゝ御方の樣に印象されたのであつた。

昭和十年六月廿日印刷納本
昭和十年六月廿五日發行

『幕末明治大正』回顧八十年史』第二十輯
定價　金壹圓貳拾錢（例郵、滿洲、小笠原、樺太、臺灣及海外は送料別）

東京市京橋區銀座五丁目四番地　編輯兼發行者　大澤米造
東京市神田區柳町一番地　印刷所　東洋文化協會印刷所
東京市神田區柳町一番地　印刷者　早川一郎
東京市小石川區西江戸川町十番地　印刷所　井口印刷合名會社

東京市京橋區銀座五丁目四番地　發行所　東洋文化協會
電話銀座五七〇四番　振替口座東京三八三四八番

不許複寫　複製　轉載

10.6.20

取扱所

大阪市北區堂島上三丁目二番地　關西一手　萬伸社　電話北一八二二九番　振替大阪二九八番
神戸市楠町二丁目一ノ一　博文社　電話元町一八三五番　振替大阪一七八三三番
大阪市住吉區阿倍野筋五ノ六五　東洋文化協會關西支部
大連市西公園町八九　東洋文化協會滿洲支社　電話大連二六三四九番　振替大連二六八八番
大阪市北區堂島濱通一ノ八二　東洋文化協會大阪支部　電話北四一四五番
京城北米倉町九四　大正通信社　電本局二七〇二番　振替京城七三四五番

終